

福祉用具選択制の実施状況に関する調査
報告書

令和 7 年 3 月

一般社団法人日本福祉用具供給協会

目次

1.	事業概要	1
1.1	事業実施の目的.....	1
1.2	調査の視点	1
1.3	調査の進め方	2
1.3.1	特別委員会の設置	2
1.3.2	調査の実施.....	2
1.3.3	報告書の作成	2
1.4	特別委員会の開催	3
1.4.1	委員の構成.....	3
1.4.2	委員会の開催	3
2.	調査の結果	4
2.1	第1回調査(令和6年5月実施分).....	4
2.1.1	相談員票(表1).....	4
2.2	第2回調査(令和6年11月実施分).....	44
2.2.1	相談員票(表2)	44
2.2.2	購入利用者票(表3).....	56
2.3	相談員に対するヒアリング.....	64
2.4	集計・ヒアリング結果の概要.....	66
	第1回・第2回調査ともに有効回答のあった500名を対象とした概要	66
2.4.1	選択判断した時点について ~2024年5月(相談員票)~	66
2.4.2	利用開始から6か月後について ~2024年11月(相談員票)~ ...	68
2.4.3	利用開始から6か月後について ~2024年11月(購入利用者票)~	68
3.	調査のまとめ	69
3.1	貸与・販売(購入)選択制の実施状況について	69
3.1.1	貸与・販売(購入)の選択について(福祉用具サービス利用開始時) ...	69
3.1.2	利用開始から6か月後について	69
3.2	選択制の今後に向けて	70
4.	参考資料	71
4.1	相談員票(第1回)	71
4.2	相談員票(第2回).....	73
4.3	購入利用者票	74
4.4	相談員票(第2回販売分追加)	75

1. 事業概要

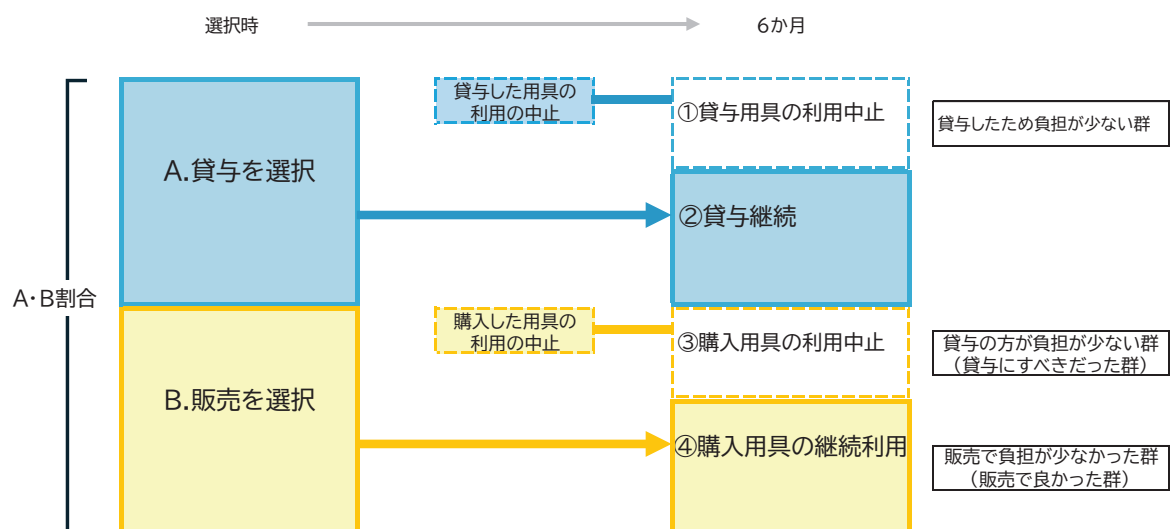
1.1 事業実施の目的

福祉用具の一部種目・種類(固定用スロープ、歩行器(歩行車を除く)、単点杖(松葉杖を除く)及び多点杖)(以下、対象福祉用具)に係る選択制が令和6年4月より施行されたところ。本制度が適切に運用されるためには、以下の点が重要と考えられる。

- ・利用者等の選択に資する情報が適切に提供されること
- ・利用者等の適切な意思決定の上で貸与又は購入が選択されること
- ・貸与後6ヶ月以内に実施されるモニタリングにおいて、貸与継続の必要性について適切な検討がなされること

本調査では上記の点について対象福祉用具の利用者等に対する実施状況を把握し、課題等を整理することを目的とする。

1.2 調査の視点



1.3 調査の進め方

上記の目的を達成するため、本調査は以下の手順で実施した。

1.3.1 特別委員会の設置

本事業の推進、成果のとりまとめ等について検討を行うため、特別委員会を3回開催した。

1.3.2 調査の実施

① 調査対象

令和6年5月に対象福祉用具の利用(貸与・販売)を開始した全ての利用者及び担当する福祉用具専門相談員(以下、相談員)

※利用者については、新規で介護保険の福祉用具を利用する方に限定
(追加納品や交換納品は対象外)

② 回答方法

【貸与の場合】		
	第1回調査 (5月)	第2回調査 (～11月)
相談員票	webにて回答	
利用者票	相談員が利用者に聞き取りを行い、webにて回答	

【販売の場合】			
	第1回調査 (5月)	第2回調査 (～11月)	追加調査 (～2月)
相談員票	webにて回答		
利用者票	相談員が利用者に聞き取りを行い、webにて回答	利用者が郵送にて回答	相談員が利用者に聞き取りを行い、webにて回答

③ 回答期間

- ・第1回調査分 令和6年5月1日(水)～6月7日(金)
※対象福祉用具(貸与・販売)の納品日が5/1(水)～31(金)を対象とし、納品日以降に回答する
- ・第2回調査分 令和6年5月1日(水)～12月6日(金)
※貸与の場合は1回目のモニタリング後、販売の場合は11月の利用者宅訪問後に回答する
- ・第2回販売分追加調査 令和7年2月3日(月)～2月10日(金)

④ 回答数

- ・第1回調査分 相談員票 :548名
- ・第2回調査分 相談員票 :509名、利用者票:67名
- ・第2回販売分追加調査 :130名

1.3.3 報告書の作成

前記1.3.1で設置した特別委員会での討議を踏まえ、報告書としてまとめた。

1.4 特別委員会の開催

1.4.1 委員の構成

<委員>

(順不同・敬称略)

氏名	所属団体名
岩元 文雄	一般社団法人日本福祉用具供給協会 副理事長（委員長） 株式会社カクイックスウィング 代表取締役社長
小野木 孝二	一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長 株式会社トーカイ 代表取締役会長
米本 稔也	一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事 フランスベッド株式会社 執行役員
平松 雅之	一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事 株式会社日本ケアサプライ 代表取締役社長
黒岩 嘉弘	一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事 公益財団法人テクノエイド協会 常務理事
濱田 和則	一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事 一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長
山本 伸一	一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事 一般社団法人日本作業療法士協会 会長
東畠 弘子	一般社団法人日本福祉用具供給協会 顧問 国際医療福祉大学大学院 教授

<アドバイザー>

氏名	所属団体名
渡邊 慎一	横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長

<事務局>

氏名	所属団体名
後藤 憲治	一般社団法人日本福祉用具供給協会 専務理事・事務局長
伊藤 広成	一般社団法人日本福祉用具供給協会 事務局次長
淡路 陽子	一般社団法人日本福祉用具供給協会 事務局主任

1.4.2 委員会の開催

	時期	主な議題
第1回	令和6年3月11日(月)	・自主事業調査の実施について
第2回	令和7年1月28日(火)	・自主事業調査の集計結果について ・令和7年度調査の実施について
第3回	令和7年3月6日(木)	・報告書案について ・令和7年度調査の実施について

2. 調査の結果

2.1 第1回調査(令和6年5月実施分)

2.1.1 相談員票(表1)

(1) 利用者の年齢

本調査に回答した利用者の年齢について、利用者の年齢は「85～89歳」が27.2%で最も多く、次いで「80～84歳」が多かった。平均年齢は82.4歳であった。

表 1-01

	調査数	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	(第1号被保険者) (65歳以上)	歳(第2号被保険者) (40歳～65歳未満)	(後期高齢者) (75歳以上)
年齢	548 100.0	3 0.5	3 0.5	6 1.1	8 1.5	14 2.6	49 8.9	77 14.1	143 26.1	149 27.2	96 17.5	528 96.4	20 3.6	465 84.9

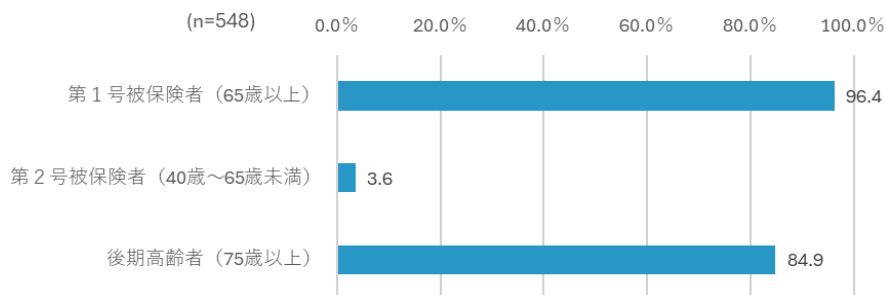
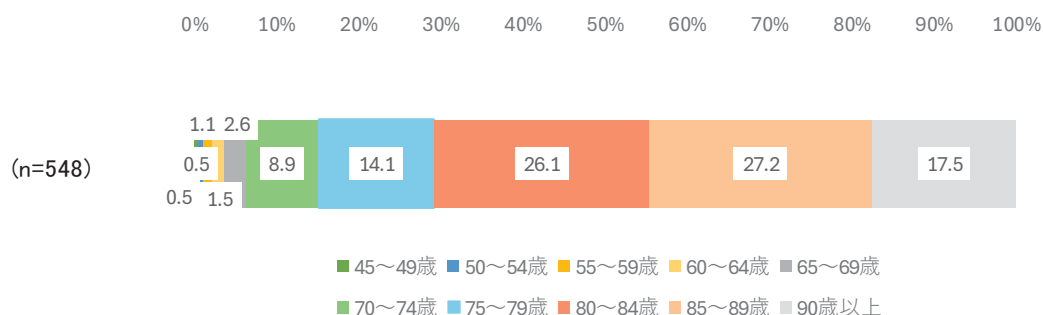


表 1-02

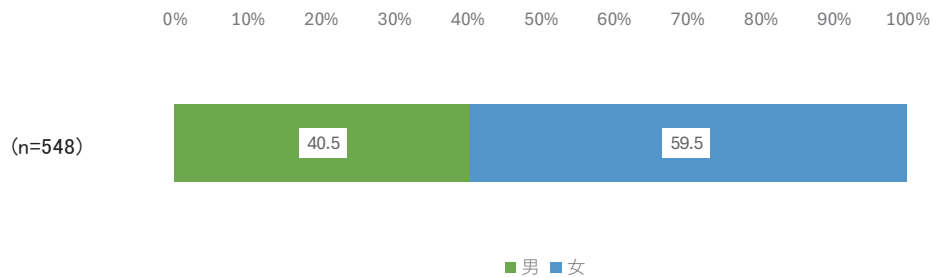
	調査数	平均	最小値	最大値
年齢	548	82.4	45.0	101.0

(2) 利用者の性別【単一回答(SA)】

本調査に回答した利用者の性別について、利用者の性別は「男性」が 40.5%、「女性」が 59.5%であった。

表 1-03

	調査数	男	女
性別【単一回答(SA)】	548 100.0	222 40.5	326 59.5

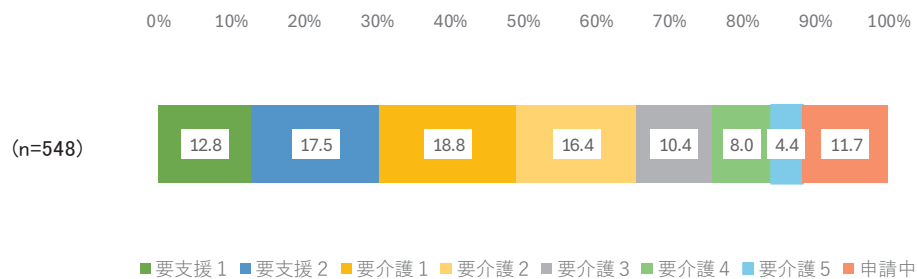


(3) 利用者の要介護度【単一回答(SA)】

本調査に回答した利用者の要介護度について、利用者の要介護度は「要介護1」と「要支援2」、「要介護2」が同程度であった。なかでも「要介護1」が18.8%で最も多かった。

表 1-04

	調査数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中
要介護度【単一回答(SA)】	548 100.0	70 12.8	96 17.5	103 18.8	90 16.4	57 10.4	44 8.0	24 4.4	64 11.7

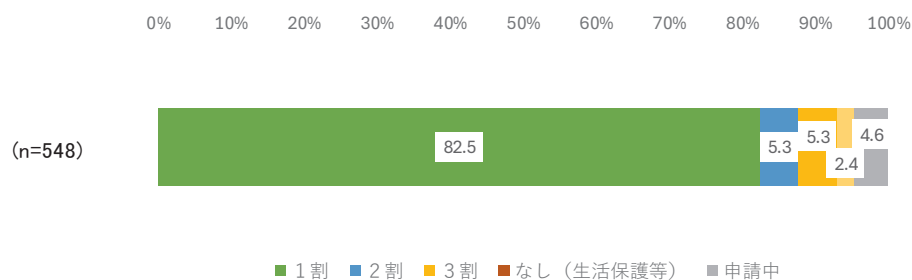


(4) 利用者の自己負担割合【単一回答(SA)】

本調査に回答した利用者の自己負担割合について、利用者の自己負担割合は、「1割」が82.5%で最も多く、次いで「2割」「3割」が多かった。

表 1-05

	調査数	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	申請中
自己負担割合【単一回答(SA)】	548 100.0	452 82.5	29 5.3	29 5.3	13 2.4	25 4.6

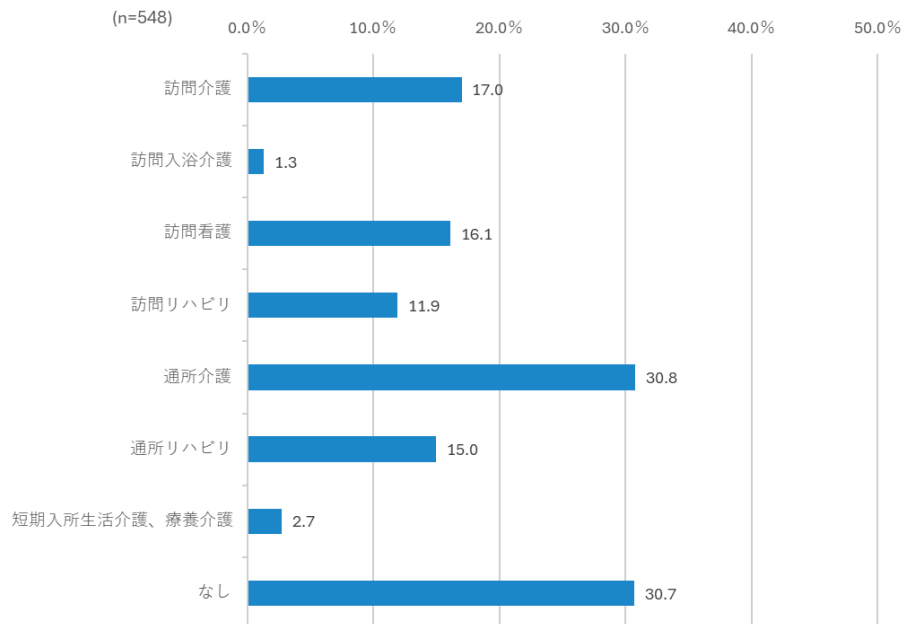


(5) 利用者の他サービス利用状況【複数回答(MA)】

本調査に回答した利用者の他サービス利用状況について、他サービスの利用状況は「通所介護」と「なし」が同程度であった。

表 1-06

	調査数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護、療養介護	なし
他サービス利用状況【複数回答(MA)】	548 100.0	93 17.0	7 1.3	88 16.1	65 11.9	169 30.8	82 15.0	15 2.7	168 30.7

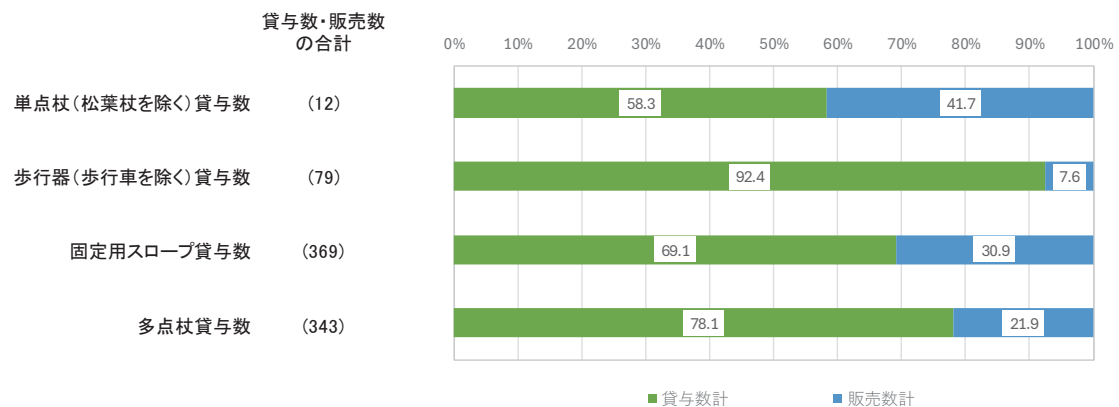


(6) 選択制判断後に利用開始した福祉用具について(貸与数・販売数)

利用開始した福祉用具(選択制判断後)の貸与数・販売数の合計は、いずれも「販売数計」に比べて「貸与数計」が多く、単点杖(松葉杖を除く)では 58.3%、歩行器(歩行車を除く)では 92.4%、固定用スロープでは 69.4%、多点杖は 78.1%であった。

表 1-07

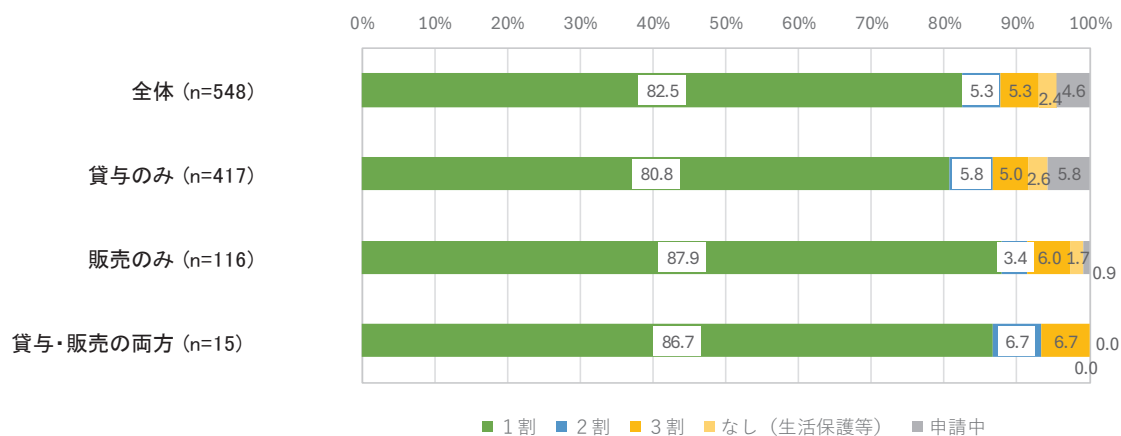
	貸与 数 の 合 計	貸 与 数 計	販 売 数 計
単点杖(松葉杖を除く)貸与数	12	7	5
		58.3	41.7
歩行器(歩行車を除く)貸与数	79	73	6
		92.4	7.6
固定用スロープ貸与数	369	255	114
		69.1	30.9
多点杖貸与数	343	268	75
		78.1	21.9



自己負担割合は、いずれも「1割」が最も多く、貸与のみでは 80.8%、販売のみでは 87.9%、貸与・販売の両方では 86.7%であった。

表 1-08

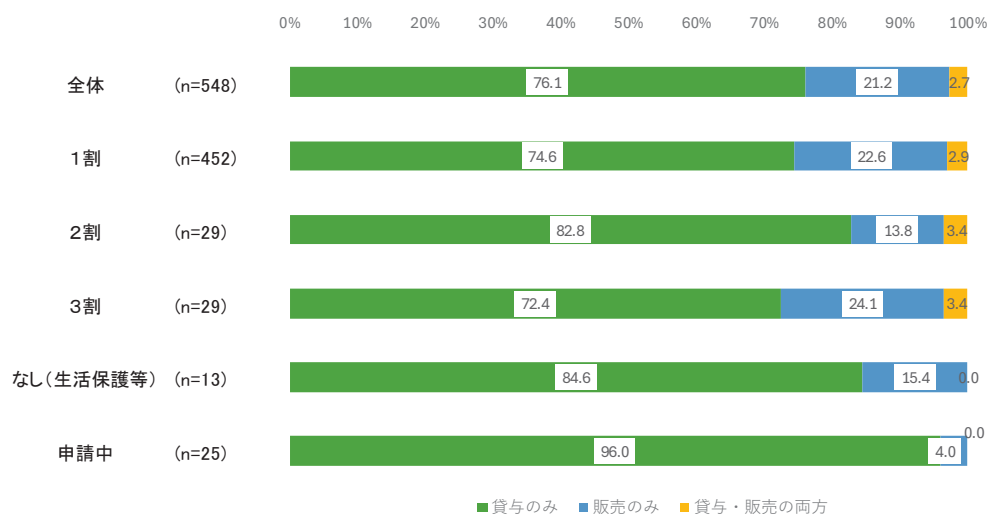
自己負担割合		調査 数	1 割	2 割	3 割	等 な し (生 活 保 護)	申 請 中
全体		548	452	29	29	13	25
		100.0	82.5	5.3	5.3	2.4	4.6
貸 与 ・ 販 売 の 状 況	貸与のみ	417	337	24	21	11	24
		100.0	80.8	5.8	5.0	2.6	5.8
	販売のみ	116	102	4	7	2	1
		100.0	87.9	3.4	6.0	1.7	0.9
貸与・販売の両方		15	13	1	1	-	-
		100.0	86.7	6.7	6.7	-	-



自己負担割合について、いずれも貸与販売の状況が「貸与のみ」が多く、「1割」が74.6%、「2割」が82.8%、「3割」が72.4%、「なし(生活保護等)」が84.6%、「申請中」が96.0%であった。

表 1-09

自己負担割合		調査数	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	申請中
全体		548	452	29	29	13	25
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
貸与・販売の状況	貸与のみ	417	337	24	21	11	24
		76.1	74.6	82.8	72.4	84.6	96.0
	販売のみ	116	102	4	7	2	1
		21.2	22.6	13.8	24.1	15.4	4.0
貸与・販売の両方		15	13	1	1	-	-
		2.7	2.9	3.4	3.4	-	-

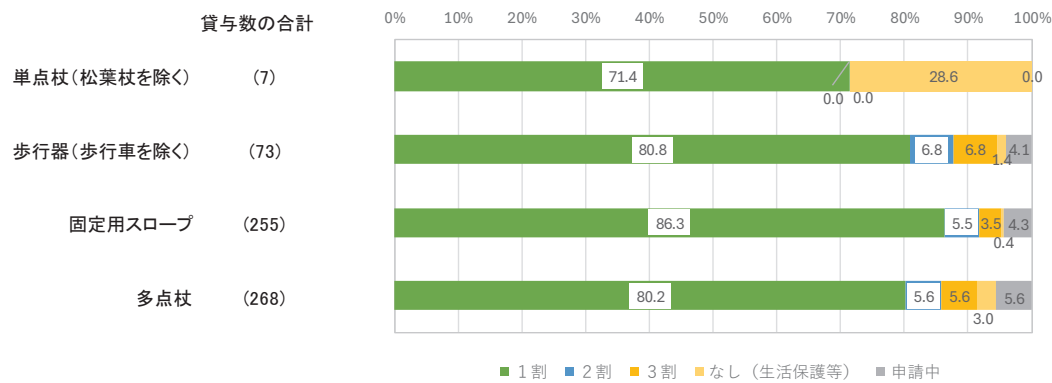


自己負担割合と貸与数量は、いずれも「1 割」が最も多く、単点杖(松葉杖を除く)では71.4%、歩行器(歩行車を除く)では 80.8%、固定用スロープでは 86.3%、多点杖では 80.2%であった。

表 1-10

自己負担割合と貸与数量

	貸与数の合計	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	申請中
単点杖(松葉杖を除く)	7 100.0	5 71.4	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0
歩行器(歩行車を除く)	73 100.0	59 80.8	5 6.8	5 6.8	1 1.4	3 4.1
固定用スロープ	255 100.0	220 86.3	14 5.5	9 3.5	1 0.4	11 4.3
多点杖	268 100.0	215 80.2	15 5.6	15 5.6	8 3.0	15 5.6

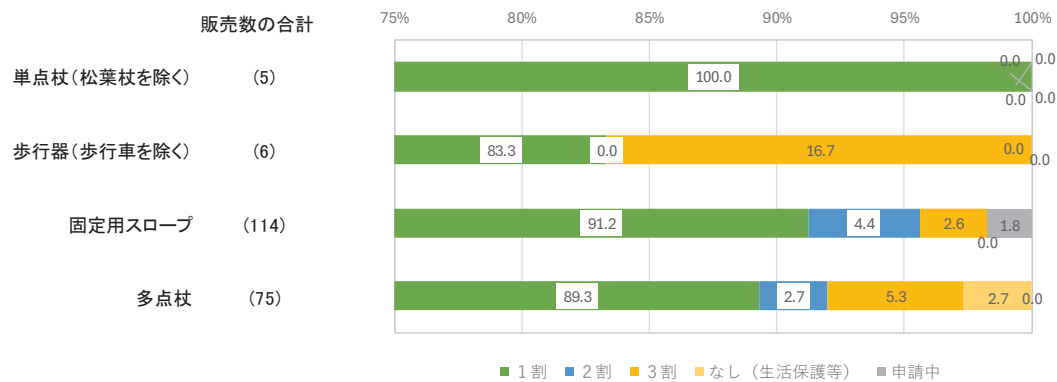


自己負担割合と販売数量は、いずれも「1 割」が最も多く、単点杖(松葉杖を除く)では 100.0%、歩行器(歩行車を除く)では 83.3%、固定用スロープでは 91.2%、多点杖では 89.3%であった。

表 1-11

自己負担割合と販売数量

	販売数の合計	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	申請中
単点杖(松葉杖を除く)	5 100.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
歩行器(歩行車を除く)	6 100.0	5 83.3	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0
固定用スロープ	114 100.0	104 91.2	5 4.4	3 2.6	0 0.0	2 1.8
多点杖	75 100.0	67 89.3	2 2.7	4 5.3	2 2.7	0 0.0

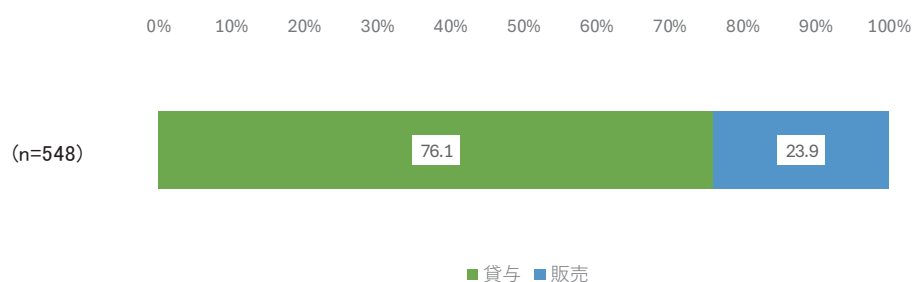


（7） 調査対象の福祉用具

調査対象の福祉用具は「貸与」が 76.1%、「販売」が 23.9%と「貸与」の方が「販売」に比べて多かった。（本調査では、調査対象利用者において貸与と販売の両方が発生した場合、販売を調査対象としている。貸与と販売の両方が発生した利用者は 15 名であった。）

表 1-12

	調査数	貸与	販売
調査対象の福祉用具は貸与・販売のどちらですか。 【単一回答(SA)】	548 100.0	417 76.1	131 23.9

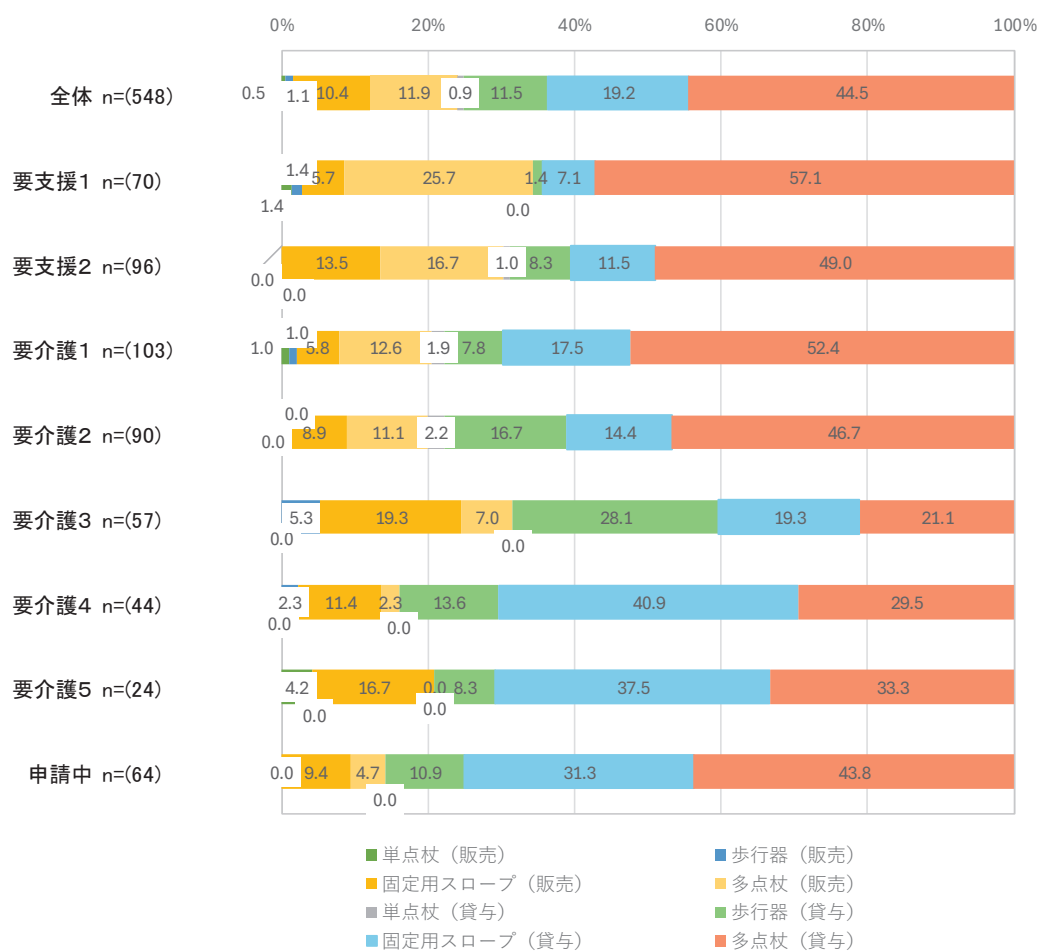


要介護度別の回答対象福祉用具について、「要支援 1」と「要支援2」、「要介護 1」、「要介護 2」、「申請中」は多点杖(貸与)が最も多く、「要介護 3」は歩行器(貸与)が 28.1%で最も多かった。「要介護 4」、「要介護 5」は固定用スロープ(貸与)が最も多かった。

表 1-13

回答対象福祉用具

		調査 数	単 点 杖 (販 売)	歩 行 器 (販 売)	(固 定 用 ス ロ ー プ (販 売)	多 点 杖 (販 売)	単 点 杖 (貸 与)	歩 行 器 (貸 与)	(固 定 用 ス ロ ー プ (貸 与)	多 点 杖 (貸 与)
全体		548 100.0	3 0.5	6 1.1	57 10.4	65 11.9	5 0.9	63 11.5	105 19.2	244 44.5
要 介 護 度 【 単 一 回 答 (S A) 】	要支援 1	70 100.0	1 1.4	1 1.4	4 5.7	18 25.7	— —	1 1.4	5 7.1	40 57.1
	要支援 2	96 100.0	— —	— —	13 13.5	16 16.7	1 1.0	8 8.3	11 11.5	47 49.0
	要介護 1	103 100.0	1 1.0	1 1.0	6 5.8	13 12.6	2 1.9	8 7.8	18 17.5	54 52.4
	要介護 2	90 100.0	— —	— —	8 8.9	10 11.1	2 2.2	15 16.7	13 14.4	42 46.7
	要介護 3	57 100.0	— —	3 5.3	11 19.3	4 7.0	— —	16 28.1	11 19.3	12 21.1
	要介護 4	44 100.0	— —	1 2.3	5 11.4	1 2.3	— —	6 13.6	18 40.9	13 29.5
	要介護 5	24 100.0	1 4.2	— —	4 16.7	— —	— —	2 8.3	9 37.5	8 33.3
	申請中	64 100.0	— —	— —	6 9.4	3 4.7	— —	7 10.9	20 31.3	28 43.8

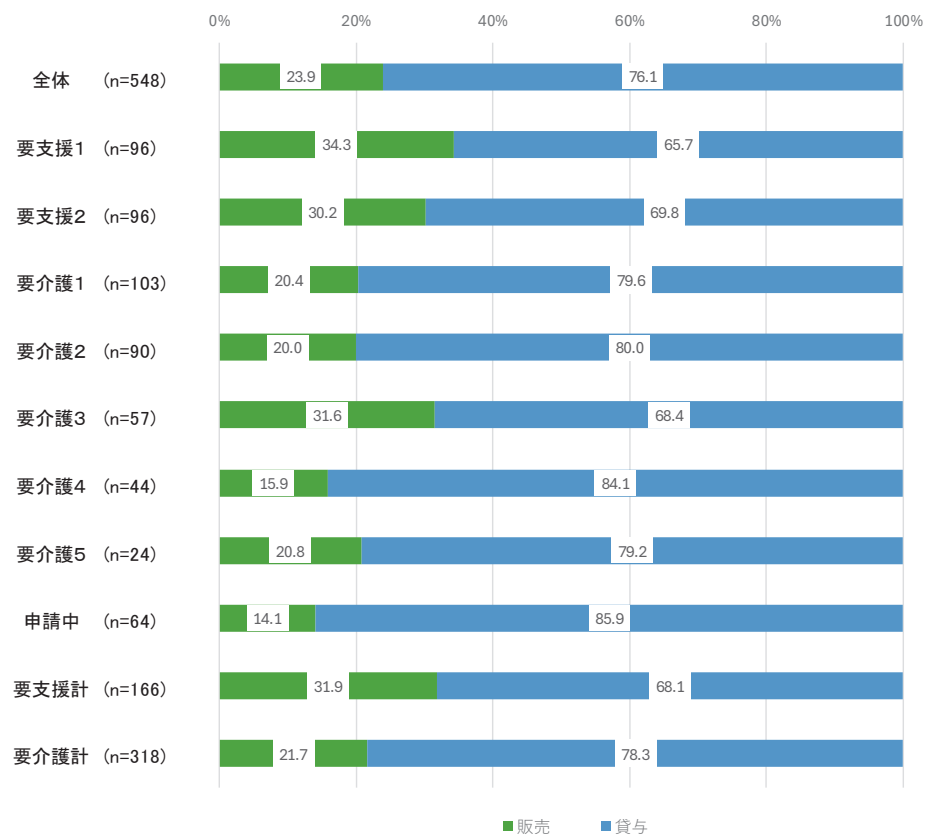


要介護度について、いずれも回答対象福祉用具が「貸与」が多く、「要支援 1」は 65.7%、「要支援 2」は 69.8%、「要介護 1」は 79.6%、「要介護 2」は 80.0%、「要介護 3」は 68.4%、「要介護 4」は 84.1%、「要介護 5」は 79.2%、「申請中」は 85.9%であった。

表 1-14

要介護度【単一回答(SA)】

	調査数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	要支援計	要介護計
全体	548	70	96	103	90	57	44	24	64	166	318
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
福祉用具	131	24	29	21	18	18	7	5	9	53	69
販売	23.9	34.3	30.2	20.4	20.0	31.6	15.9	20.8	14.1	31.9	21.7
貸与	417	46	67	82	72	39	37	19	55	113	249
	76.1	65.7	69.8	79.6	80.0	68.4	84.1	79.2	85.9	68.1	78.3

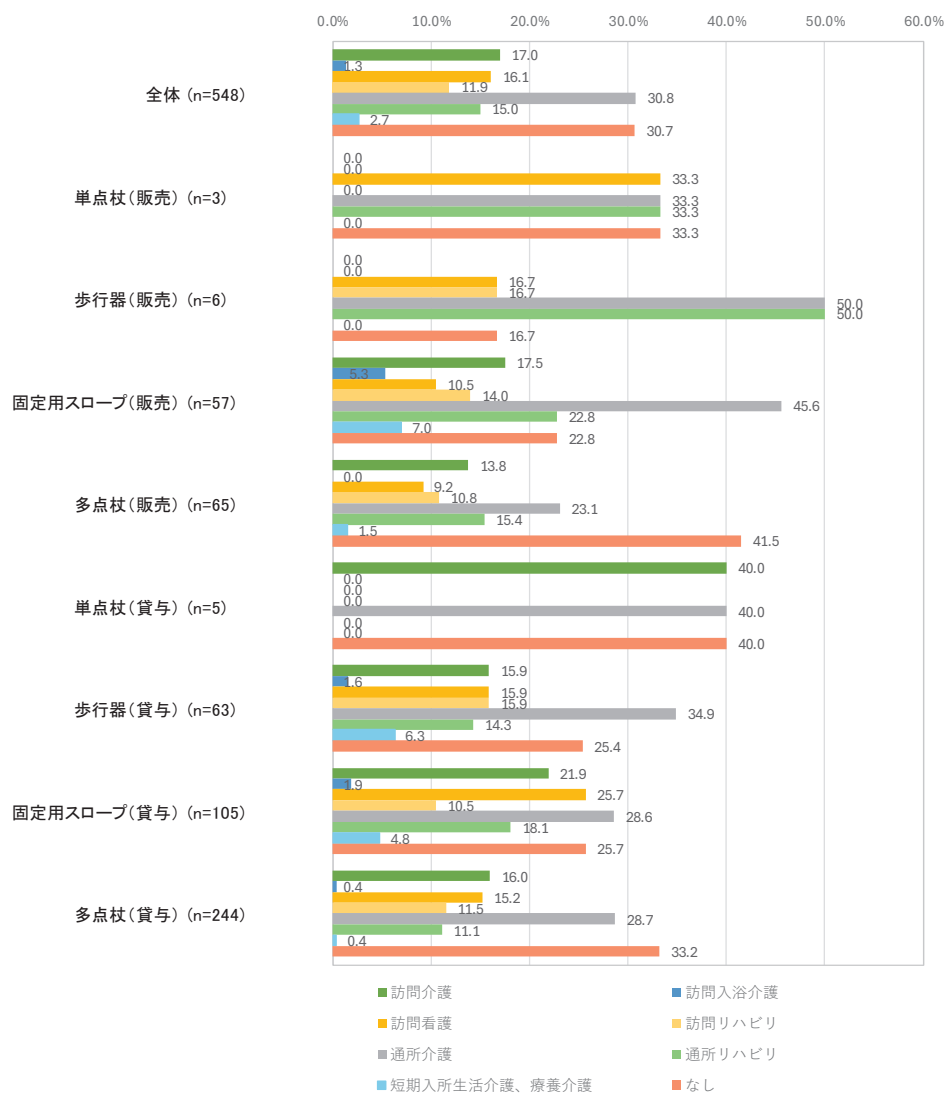


他サービスの利用状況について、最も多かったのは単点杖(販売)では「訪問看護」「通所介護」「通所リハビリ」「他サービス利用なし」が 33.3%、歩行器(販売)では「通所介護」「通所リハビリ」が 50.0%、固定用スロープ(販売)では「通所介護」が 45.6%、多点杖(販売)では「他サービス利用なし」が 41.5%、単点杖(貸与)では「訪問介護」「通所介護」「他サービス利用なし」が 40.0%、歩行器(貸与)では「通所介護」が 34.9%、固定用スロープ(貸与)では「通所介護」が 28.6%、多点杖(貸与)では「他サービス利用なし」が 33.2%であった。

表 1-15

他サービス利用状況【複数回答(MA)】

		調査 数	訪問 介護	訪問 入浴 介護	訪問 看護	訪問 リハ ビリ	通 所 介 護	通 所 リ ハ ビ リ	短 期 入 所 生 活 介 護	な し
全体		548 100.0	93 17.0	7 1.3	88 16.1	65 11.9	169 30.8	82 15.0	15 2.7	168 30.7
回 答 対 象 福 祉 用 具	単点杖(販売)	3 100.0	- -	- -	1 33.3	- -	1 33.3	1 33.3	- -	1 33.3
	歩行器(販売)	6 100.0	- -	- -	1 16.7	1 16.7	3 50.0	3 50.0	- -	1 16.7
	固定用スロープ(販売)	57 100.0	10 17.5	3 5.3	6 10.5	8 14.0	26 45.6	13 22.8	4 7.0	13 22.8
	多点杖(販売)	65 100.0	9 13.8	- -	6 9.2	7 10.8	15 23.1	10 15.4	1 1.5	27 41.5
	単点杖(貸与)	5 100.0	2 40.0	- -	- -	- -	2 40.0	- -	- -	2 40.0
	歩行器(貸与)	63 100.0	10 15.9	1 1.6	10 15.9	10 15.9	22 34.9	9 14.3	4 6.3	16 25.4
	固定用スロープ(貸与)	105 100.0	23 21.9	2 1.9	27 25.7	11 10.5	30 28.6	19 18.1	5 4.8	27 25.7
	多点杖(貸与)	244 100.0	39 16.0	1 0.4	37 15.2	28 11.5	70 28.7	27 11.1	1 0.4	81 33.2

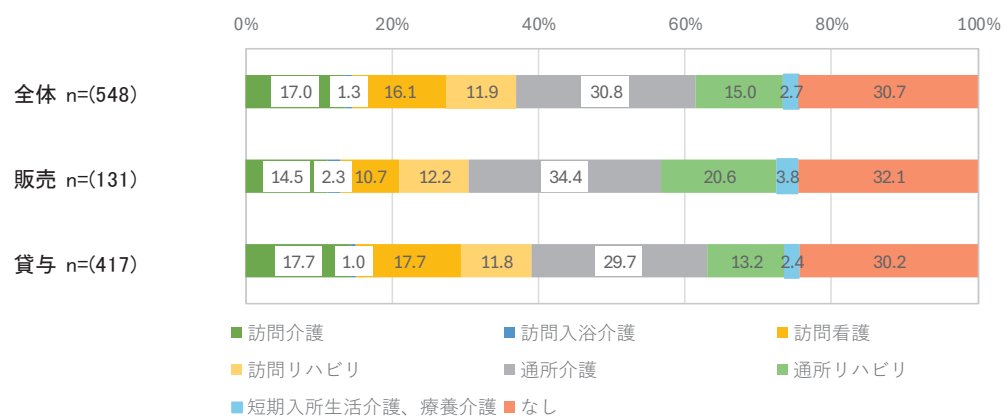


他サービスの利用状況について、いずれも回答対象福祉用具は「貸与」が多く、「訪問介護」が 79.6%、「訪問入浴介護」が 57.1%、「訪問看護」が 84.1%、「訪問リハビリ」が 75.4%、「通所介護」が 73.4%、「通所リハビリ」が 67.1%、「短期入所生活介護、療養介護」が 66.7%、「なし」が 75.0%であった。

表 1-16

他サービス利用状況【複数回答(MA)】

	調査数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護、療養介護	なし
全体	548	93	7	88	65	169	82	15	168
	100.0	17.0	1.3	16.1	11.9	30.8	15.0	2.7	30.7
福祉用具 回答対象	販売	131	19	3	14	16	45	27	42
		100.0	14.5	2.3	10.7	12.2	34.4	20.6	32.1
貸与	417	74	4	74	49	124	55	10	126
	100.0	17.7	1.0	17.7	11.8	29.7	13.2	2.4	30.2



(8) 提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報

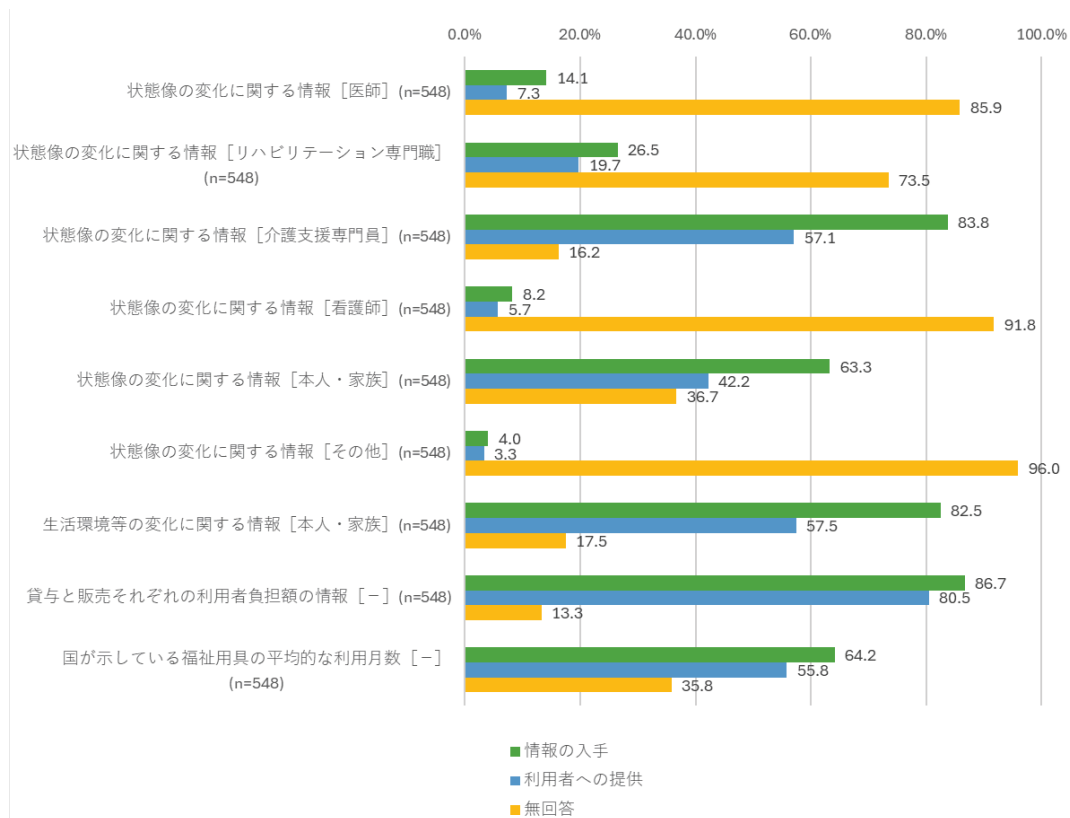
提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、いずれも利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多く、「医師による状態像の変化に関する情報」は 14.1%、「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」が 26.5%、「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」が 83.8%、「看護師による状態像の変化に関する情報」が 8.2%、「本人・家族による状態像の変化に関する情報」が 63.3%、「状態像の変化に関する情報(その他)」が 4.0%、「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」が 82.5%、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が 86.7%、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」が 64.2%であった。

表 1-17

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について

	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	548 100.0	77 14.1 100.0	40 7.3 51.9	471 85.9
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	548 100.0	145 26.5 100.0	108 19.7 74.5	403 73.5
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	548 100.0	459 83.8 100.0	313 57.1 68.2	89 16.2
状態像の変化に関する情報[看護師]	548 100.0	45 8.2 100.0	31 5.7 68.9	503 91.8
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	548 100.0	347 63.3 100.0	231 42.2 66.6	201 36.7
状態像の変化に関する情報[その他]	548 100.0	22 4.0 100.0	18 3.3 81.8	526 96.0
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	548 100.0	452 82.5 100.0	315 57.5 69.7	96 17.5
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]	548 100.0	475 86.7 100.0	441 80.5 92.8	73 13.3
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]	548 100.0	352 64.2 100.0	306 55.8 86.9	196 35.8

※上記表内各 3 段目の構成比は、「情報の入手」に占める「利用者への提供」の割合を示している。

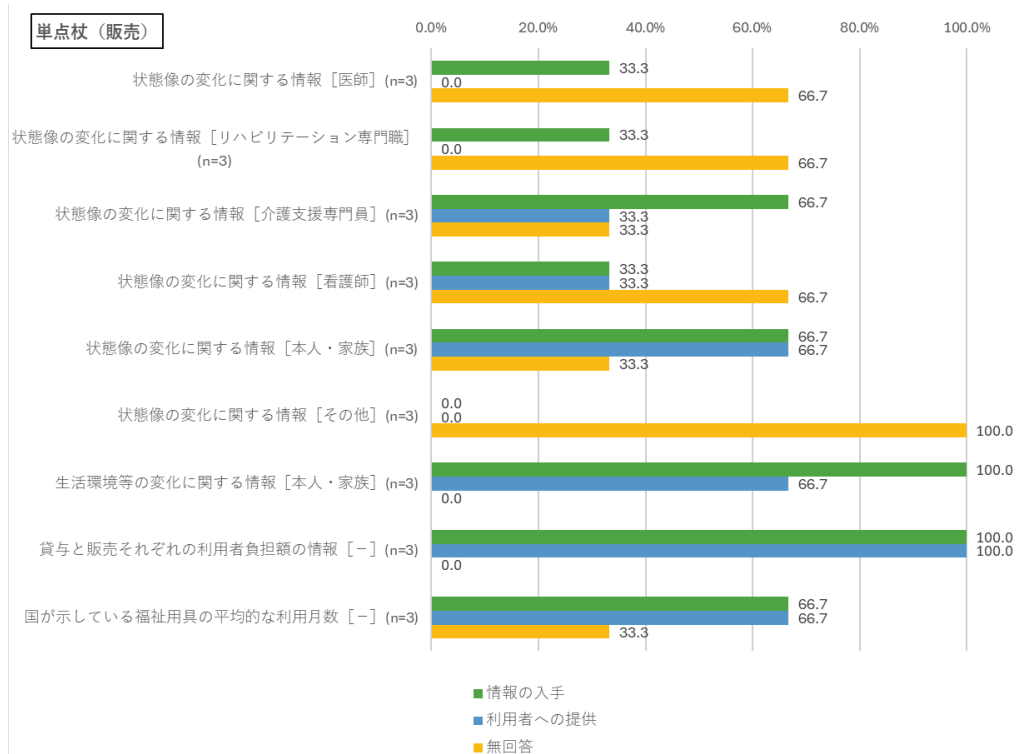


単点杖(販売)の、提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、「医師による状態像の変化に関する情報」、「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」、「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。「看護師による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による状態像の変化に関する情報」、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手は同率であった。

表 1-18

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

単点杖(販売)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	3 100.0	1 33.3	- -	2 66.7
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	3 100.0	1 33.3	- -	2 66.7
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3
状態像の変化に関する情報[看護師]	3 100.0	1 33.3	1 33.3	2 66.7
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3
状態像の変化に関する情報[その他]	3 100.0	- -	- -	3 100.0
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	3 100.0	3 100.0	2 66.7	- -
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[-]	3 100.0	3 100.0	3 100.0	- -
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[-]	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3

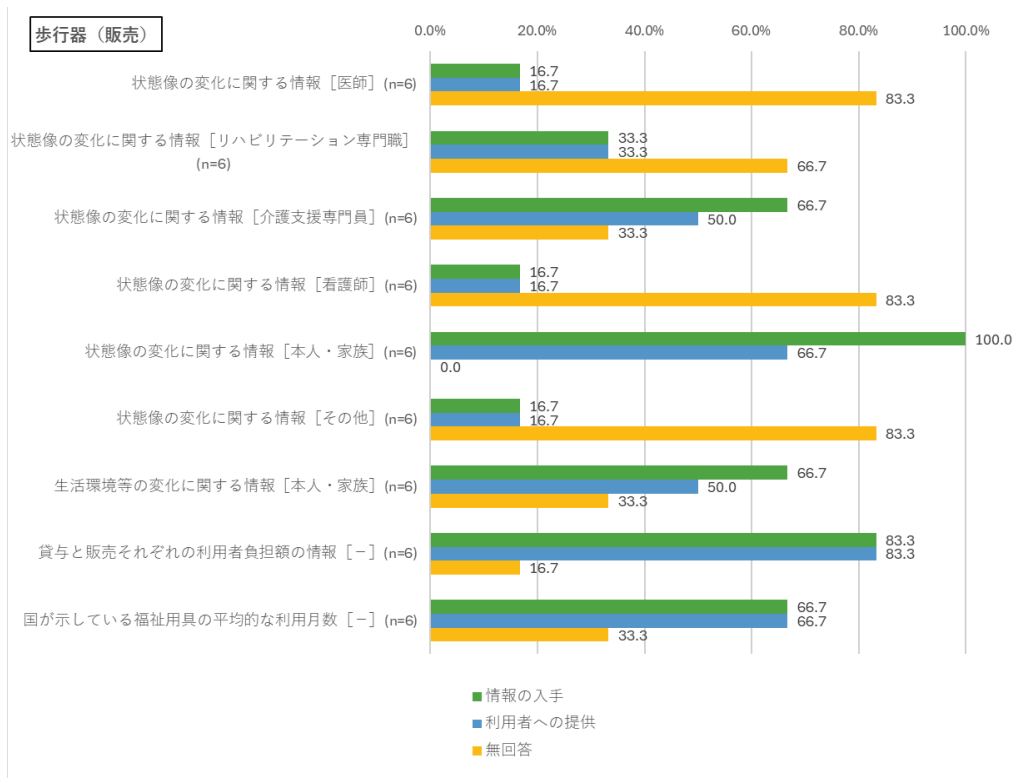


歩行器(販売)の、提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。「医師による状態像の変化に関する情報」、「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」、「看護師による状態像の変化に関する情報」、「状態像の変化に関する情報(その他)」、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手は同率であった。

表 1-19

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

歩行器(販売)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	6 100.0	1 16.7	1 16.7	5 83.3
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	6 100.0	2 33.3	2 33.3	4 66.7
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	6 100.0	4 66.7	3 50.0	2 33.3
状態像の変化に関する情報[看護師]	6 100.0	1 16.7	1 16.7	5 83.3
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	6 100.0	6 100.0	4 66.7	— —
状態像の変化に関する情報[その他]	6 100.0	1 16.7	1 16.7	5 83.3
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	6 100.0	4 66.7	3 50.0	2 33.3
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[—]	6 100.0	5 83.3	5 83.3	1 16.7
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[—]	6 100.0	4 66.7	4 66.7	2 33.3

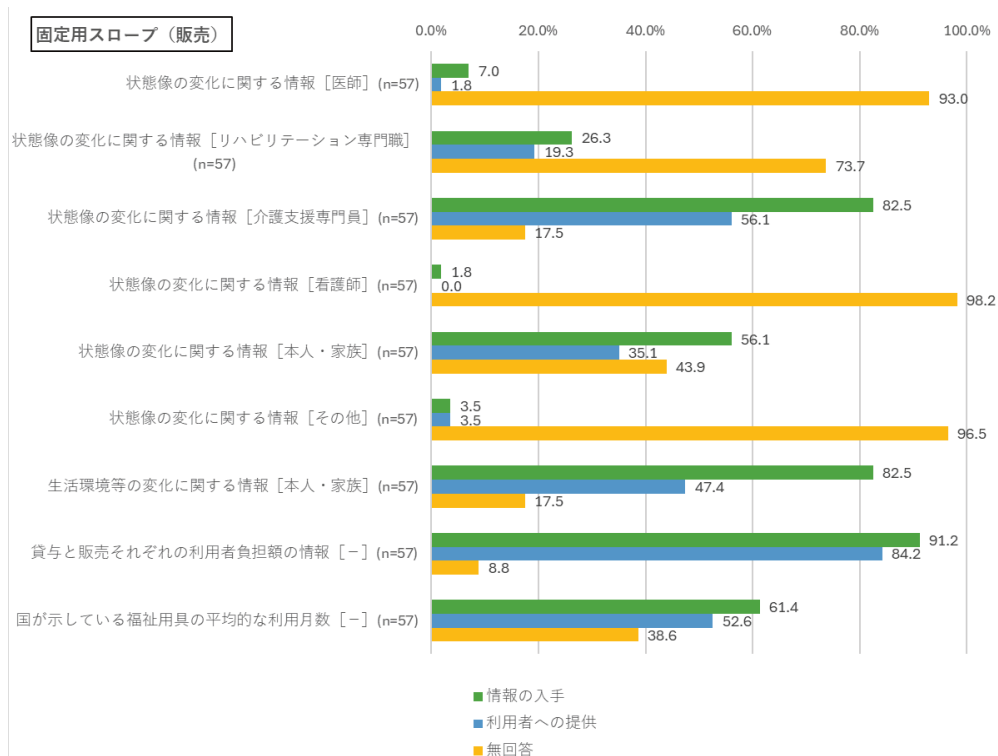


固定用スロープ(販売)の、提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、「医師による状態像の変化に関する情報」、「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」、「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」、「看護師による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」、「本人・家族による状態像の変化に関する情報」、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。「状態像の変化に関する情報(その他)」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手は同率であった。

表 1-20

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

固定用スロープ(販売)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	57 100.0	4 7.0	1 1.8	53 93.0
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	57 100.0	15 26.3	11 19.3	42 73.7
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	57 100.0	47 82.5	32 56.1	10 17.5
状態像の変化に関する情報[看護師]	57 100.0	1 1.8	— 0.0	56 98.2
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	57 100.0	32 56.1	20 35.1	25 43.9
状態像の変化に関する情報[その他]	57 100.0	2 3.5	2 3.5	55 96.5
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	57 100.0	47 82.5	27 47.4	10 17.5
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[—]	57 100.0	52 91.2	48 84.2	5 8.8
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[—]	57 100.0	35 61.4	30 52.6	22 38.6

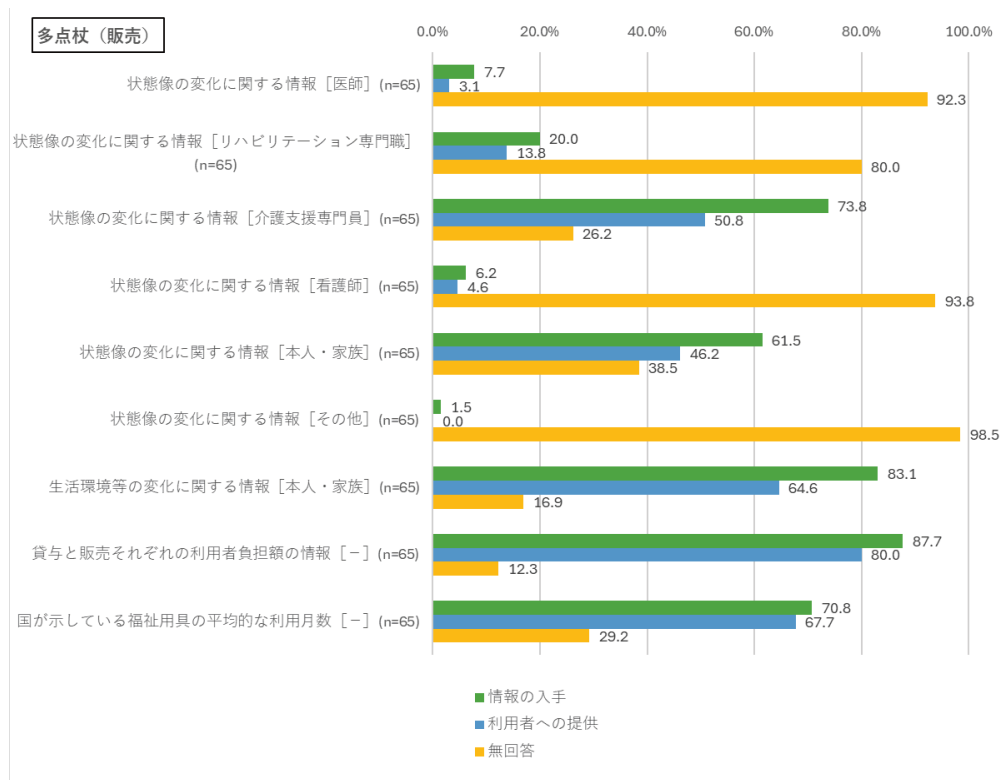


多点杖(販売)の、提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、いずれも利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。

表 1-21

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

多点杖(販売)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	65 100.0	5 7.7	2 3.1	60 92.3
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	65 100.0	13 20.0	9 13.8	52 80.0
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	65 100.0	48 73.8	33 50.8	17 26.2
状態像の変化に関する情報[看護師]	65 100.0	4 6.2	3 4.6	61 93.8
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	65 100.0	40 61.5	30 46.2	25 38.5
状態像の変化に関する情報[その他]	65 100.0	1 1.5	— —	64 98.5
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	65 100.0	54 83.1	42 64.6	11 16.9
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[—]	65 100.0	57 87.7	52 80.0	8 12.3
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[—]	65 100.0	46 70.8	44 67.7	19 29.2

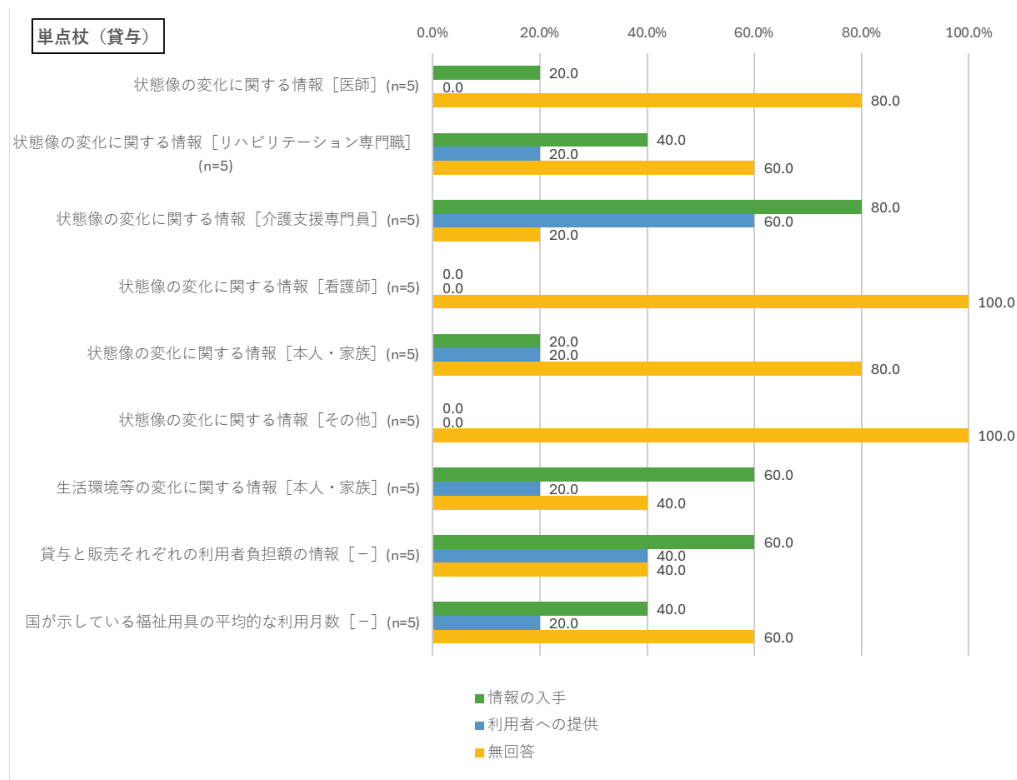


単点杖(貸与)の、提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報については、「医師による状態像の変化に関する情報」、「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」、「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」、「看護師による状態像の変化に関する情報」、「状態像の変化に関する情報(その他)」、「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。「本人・家族による状態像の変化に関する情報」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手は同率であった。

表 1-22

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

単点杖(貸与)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	5 100.0	1 20.0	— —	4 80.0
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	5 100.0	2 40.0	1 20.0	3 60.0
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	5 100.0	4 80.0	3 60.0	1 20.0
状態像の変化に関する情報[看護師]	5 100.0	— —	— —	5 100.0
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	5 100.0	1 20.0	1 20.0	4 80.0
状態像の変化に関する情報[その他]	5 100.0	— —	— —	5 100.0
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	5 100.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[—]	5 100.0	3 60.0	2 40.0	2 40.0
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[—]	5 100.0	2 40.0	1 20.0	3 60.0

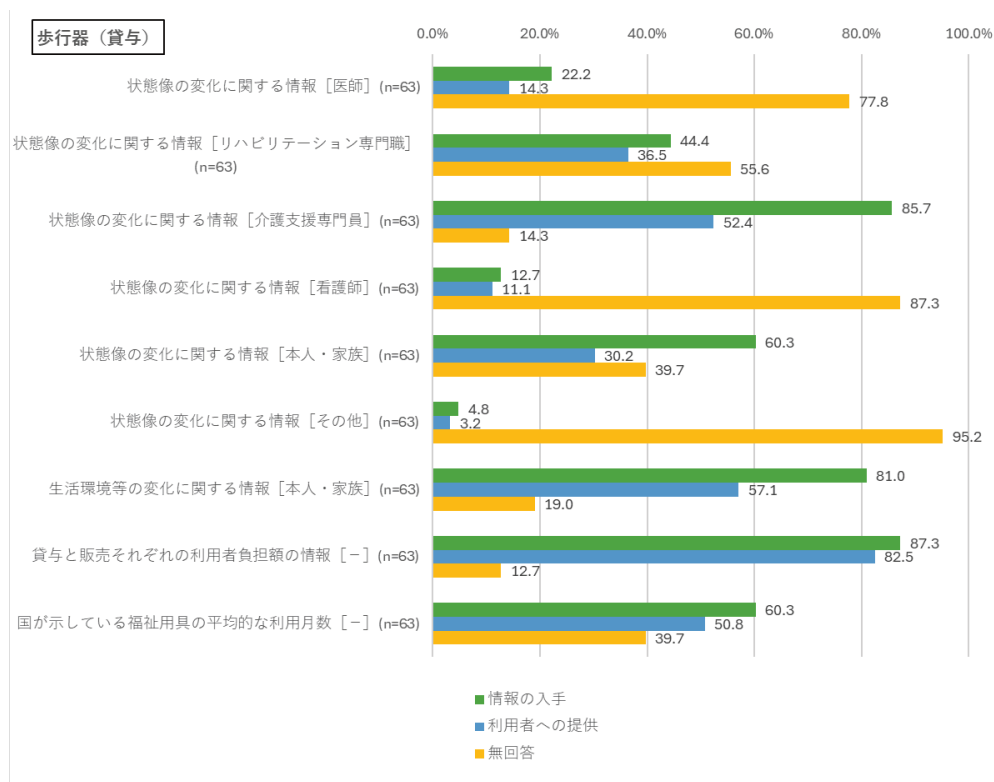


歩行器(貸与)の、提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、いずれも利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。

表 1-23

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

歩行器(貸与)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	63 100.0	14 22.2	9 14.3	49 77.8
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	63 100.0	28 44.4	23 36.5	35 55.6
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	63 100.0	54 85.7	33 52.4	9 14.3
状態像の変化に関する情報[看護師]	63 100.0	8 12.7	7 11.1	55 87.3
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	63 100.0	38 60.3	19 30.2	25 39.7
状態像の変化に関する情報[その他]	63 100.0	3 4.8	2 3.2	60 95.2
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	63 100.0	51 81.0	36 57.1	12 19.0
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]	63 100.0	55 87.3	52 82.5	8 12.7
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]	63 100.0	38 60.3	32 50.8	25 39.7



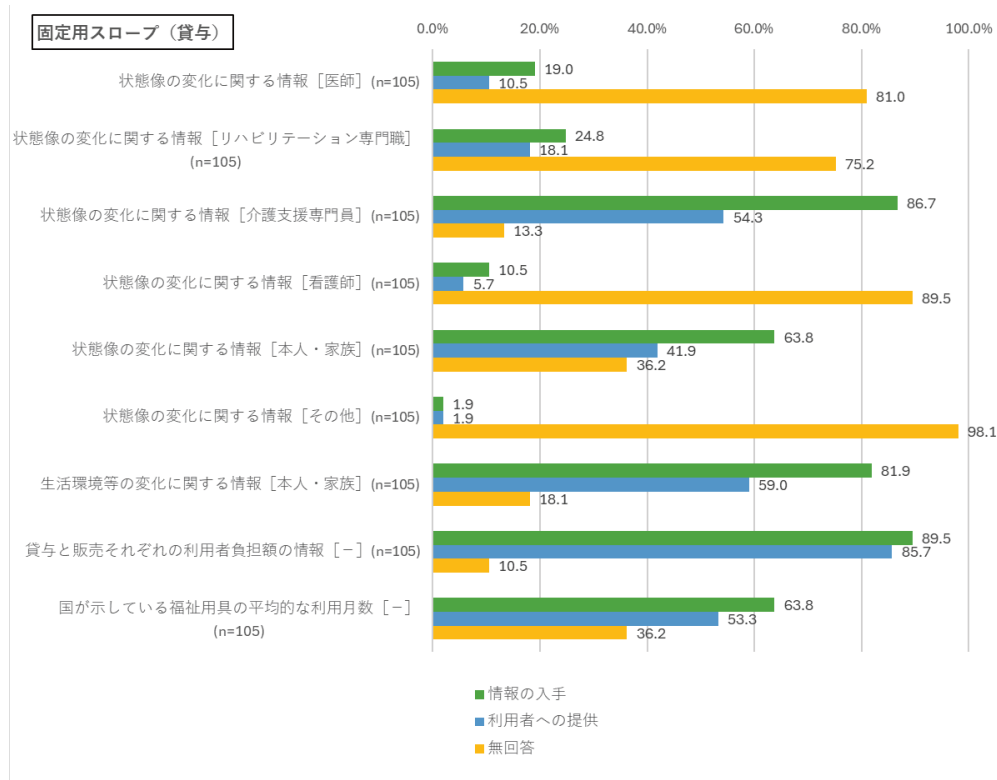
固定用スロープ(貸与)の、提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、「医師による状態像の変化に関する情報」、「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する

情報」、「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」、「看護師による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。「状態像の変化に関する情報(その他)」は利用者への情報の提供に比べて情報の入手は同率であった。

表 1-24

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

固定用スロープ(貸与)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	105 100.0	20 19.0	11 10.5	85 81.0
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	105 100.0	26 24.8	19 18.1	79 75.2
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	105 100.0	91 86.7	57 54.3	14 13.3
状態像の変化に関する情報[看護師]	105 100.0	11 10.5	6 5.7	94 89.5
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	105 100.0	67 63.8	44 41.9	38 36.2
状態像の変化に関する情報[その他]	105 100.0	2 1.9	2 1.9	103 98.1
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	105 100.0	86 81.9	62 59.0	19 18.1
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]	105 100.0	94 89.5	90 85.7	11 10.5
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]	105 100.0	67 63.8	56 53.3	38 36.2

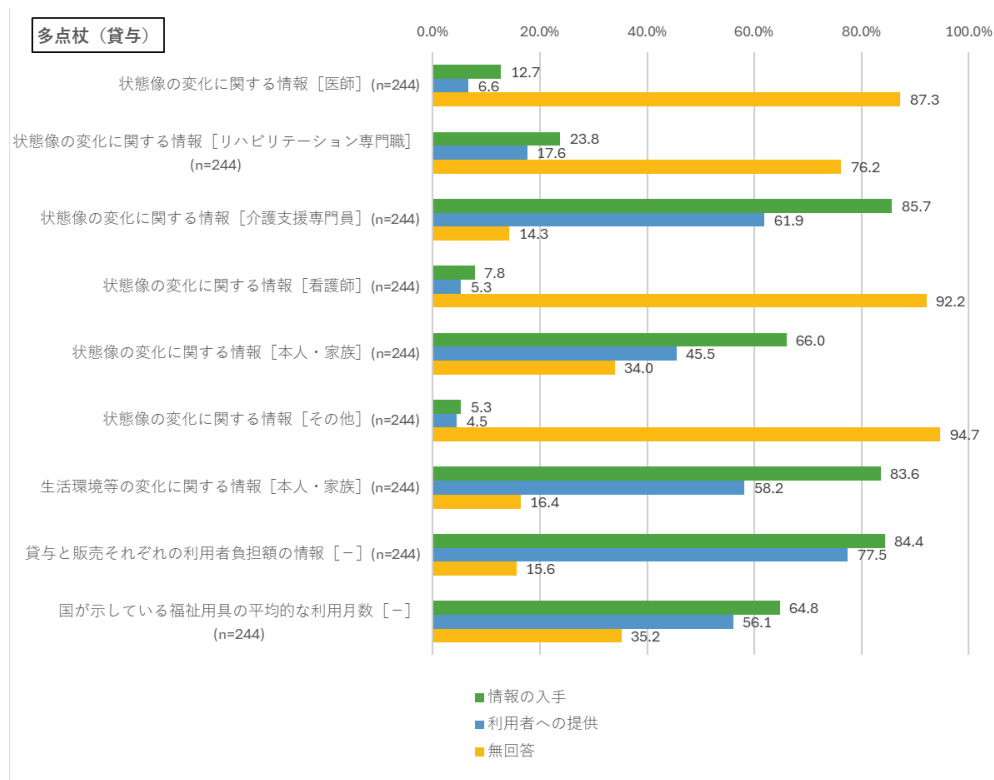


多点杖(貸与)の、提案にあたって収集した情報の入手先とご利用者へ提供した情報については、いずれも利用者への情報の提供に比べて情報の入手が多かった。

表 1-25

提案にあたって収集した情報の入手先と、ご利用者へ提供した情報について【複数回答(MA)】

多点杖(貸与)	調査数	情報の入手	利用者への提供	無回答
状態像の変化に関する情報[医師]	244 100.0	31 12.7	16 6.6	213 87.3
状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	244 100.0	58 23.8	43 17.6	186 76.2
状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	244 100.0	209 85.7	151 61.9	35 14.3
状態像の変化に関する情報[看護師]	244 100.0	19 7.8	13 5.3	225 92.2
状態像の変化に関する情報[本人・家族]	244 100.0	161 66.0	111 45.5	83 34.0
状態像の変化に関する情報[その他]	244 100.0	13 5.3	11 4.5	231 94.7
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	244 100.0	204 83.6	142 58.2	40 16.4
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]	244 100.0	206 84.4	189 77.5	38 15.6
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]	244 100.0	158 64.8	137 56.1	86 35.2

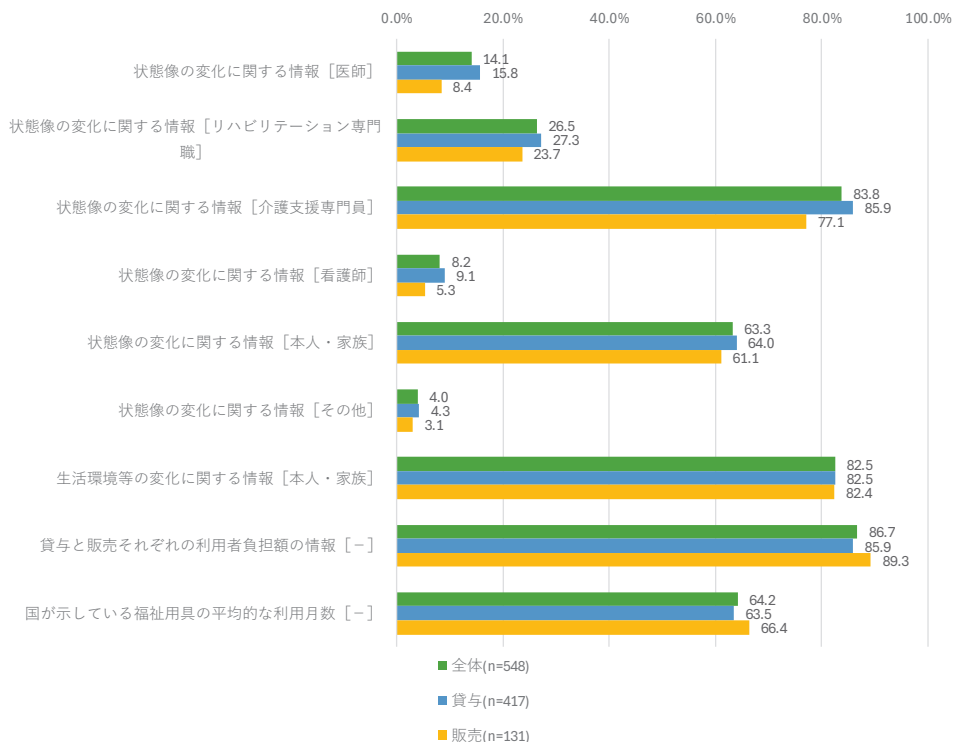


調査対象の福祉用具が「貸与」の場合の提案にあたって収集した情報の入手先は、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」と「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」が 85.9%で最も多く、次いで「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」が 82.5%と多かった。調査対象の福祉用具が「販売」の場合の提案にあたって収集した情報の入手先については、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が 89.3%で最も多く、次いで「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」が 82.4%と多かった。

表 1-26

調査対象の福祉用具は貸与・販売のどちらですか。【単一回答(SA)】

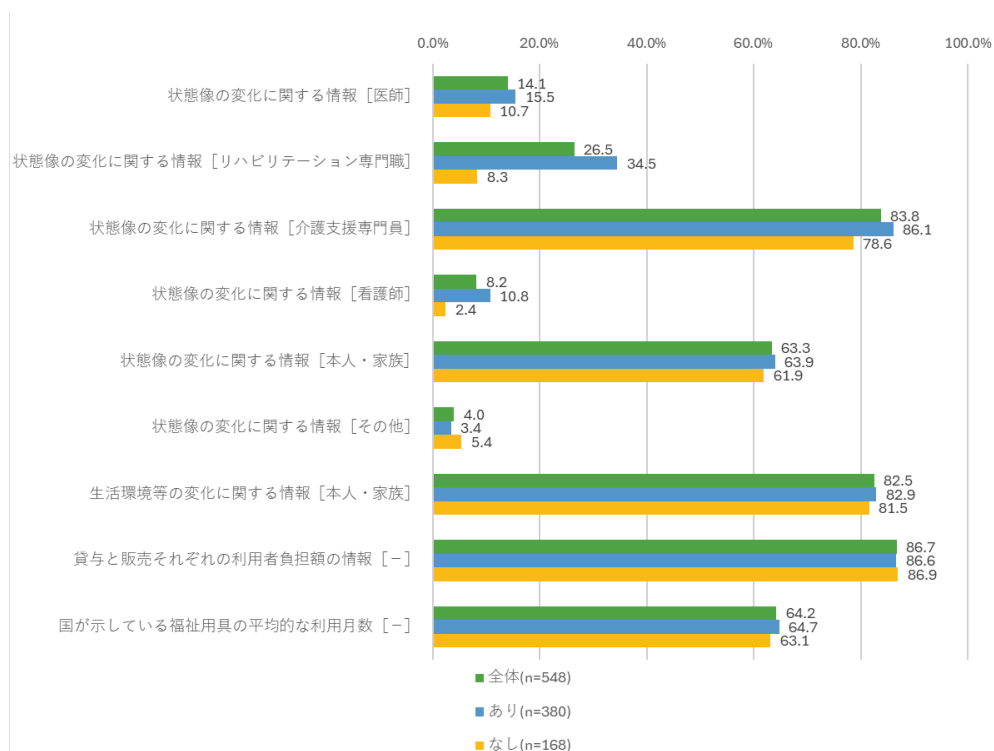
		調査数	貸与	販売
全体		548	417	131
		100.0	100.0	100.0
情報の入手	状態像の変化に関する情報[医師]	77	66	11
		14.1	15.8	8.4
	状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	145	114	31
		26.5	27.3	23.7
	状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	459	358	101
		83.8	85.9	77.1
	状態像の変化に関する情報[看護師]	45	38	7
		8.2	9.1	5.3
	状態像の変化に関する情報[本人・家族]	347	267	80
		63.3	64.0	61.1
	状態像の変化に関する情報[その他]	22	18	4
		4.0	4.3	3.1
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]		452	344	108
		82.5	82.5	82.4
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]		475	358	117
		86.7	85.9	89.3
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]		352	265	87
		64.2	63.5	66.4



他サービスの利用状況が「あり」の場合の提案にあたって収集した情報の入手先は、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」と「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」が同程度で多く、次いで「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」が 82.9%と多かった。他サービスの利用状況が「なし」の場合の提案にあたって収集した情報の入手先は、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が 86.9%と最も多く、次いで「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」が 81.5%と多かった。

表 1-27

他サービス利用状況		調査数	あり	なし
全体		548	380	168
		100.0	100.0	100.0
情報の入手	状態像の変化に関する情報[医師]	77	59	18
		14.1	15.5	10.7
	状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	145	131	14
		26.5	34.5	8.3
	状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	459	327	132
		83.8	86.1	78.6
	状態像の変化に関する情報[看護師]	45	41	4
		8.2	10.8	2.4
	状態像の変化に関する情報[本人・家族]	347	243	104
		63.3	63.9	61.9
	状態像の変化に関する情報[その他]	22	13	9
		4.0	3.4	5.4
生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]		452	315	137
		82.5	82.9	81.5
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]		475	329	146
		86.7	86.6	86.9
国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]		352	246	106
		64.2	64.7	63.1

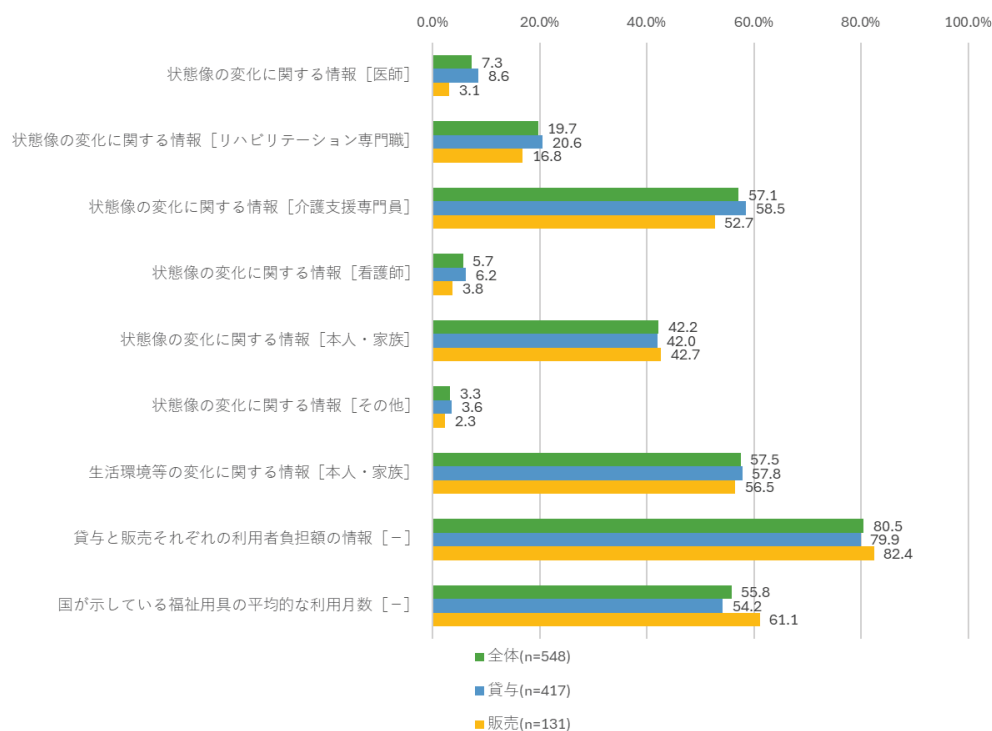


調査対象の福祉用具が「貸与」の場合の利用者への提供した情報は、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が 79.9%で最も多く、次いで「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」が 58.5%と多かった。他サービスの利用状況が「なし」の場合の利用者への提供した情報については、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が 82.4%で最も多く、次いで「国が示している福祉用具の平均的な利用者数」が 61.1%と多かった。

表 1-28

調査対象の福祉用具は貸与・販売のどちらですか。【単一回答(SA)】

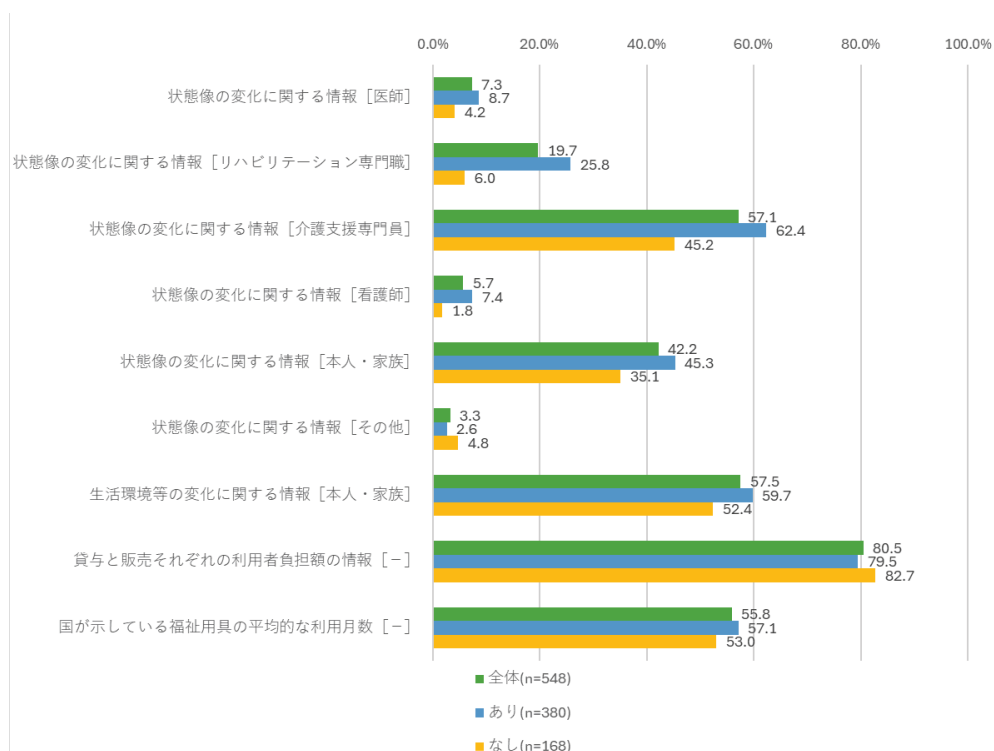
		調査数	貸与	販売
全体		548	417	131
		100.0	100.0	100.0
利用者への提供	状態像の変化に関する情報[医師]	40	36	4
		7.3	8.6	3.1
	状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	108	86	22
		19.7	20.6	16.8
	状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	313	244	69
		57.1	58.5	52.7
	状態像の変化に関する情報[看護師]	31	26	5
		5.7	6.2	3.8
	状態像の変化に関する情報[本人・家族]	231	175	56
		42.2	42.0	42.7
	状態像の変化に関する情報[その他]	18	15	3
		3.3	3.6	2.3
	生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	315	241	74
		57.5	57.8	56.5
	貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]	441	333	108
		80.5	79.9	82.4
	国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]	306	226	80
		55.8	54.2	61.1



他サービスの利用状況が「あり」の場合の利用者への提供した情報は、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が 79.5%で最も多く、次いで「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」が 62.4%と多かった。他サービスの利用状況が「なし」の場合の利用者への提供した情報については、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が 82.7%で最も多く、次いで「国が示している福祉用具の平均的な利用者数」が 53.0%と多かった。

表 1-29

他サービス利用状況		調査数	あり	なし
全体		548 100.0	380 100.0	168 100.0
利用者への提供	状態像の変化に関する情報[医師]	40 7.3	33 8.7	7 4.2
	状態像の変化に関する情報[リハビリテーション専門職]	108 19.7	98 25.8	10 6.0
	状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]	313 57.1	237 62.4	76 45.2
	状態像の変化に関する情報[看護師]	31 5.7	28 7.4	3 1.8
	状態像の変化に関する情報[本人・家族]	231 42.2	172 45.3	59 35.1
	状態像の変化に関する情報[その他]	18 3.3	10 2.6	8 4.8
	生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]	315 57.5	227 59.7	88 52.4
	貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報[－]	441 80.5	302 79.5	139 82.7
	国が示している福祉用具の平均的な利用月数[－]	306 55.8	217 57.1	89 53.0

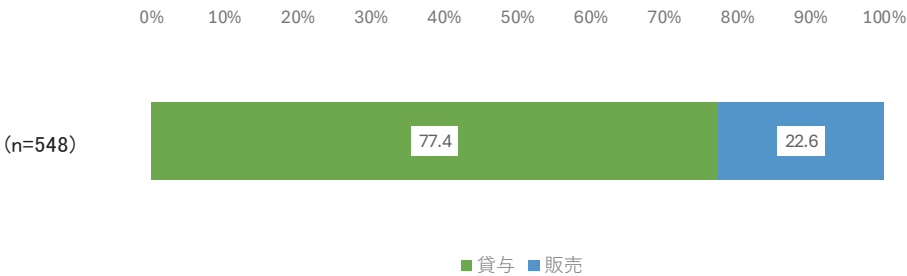


(9) 提案内容

提案内容は「貸与」が 77.6%、「販売」が 22.4%と「貸与」が「販売」に比べて多かった。

表 1-30

	調査数	貸与	販売
提案内容【単一回答(SA)】	548 100.0	424 77.4	124 22.6

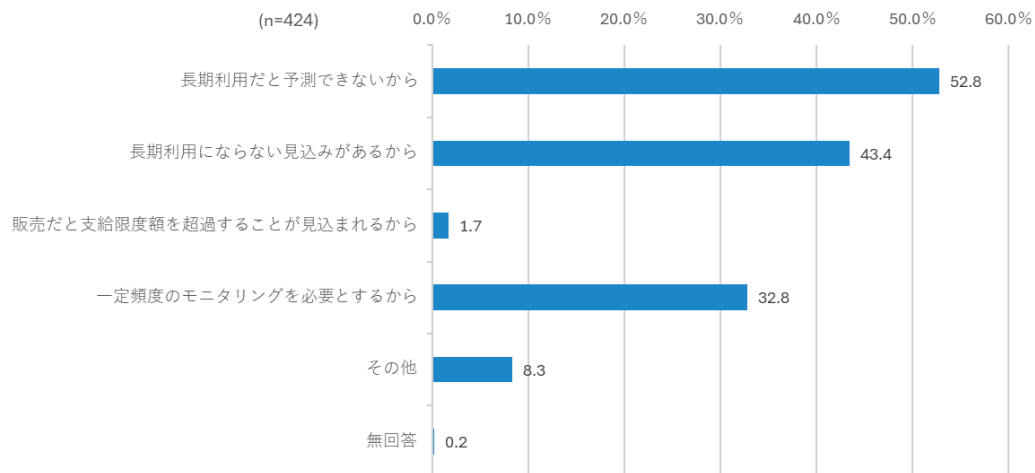


(10) 貸与を提案した理由

貸与を提案した理由は「長期利用だと予測できないから」が 52.8%で最も多く、次いで「長期利用にはならない見込みがあるから」が多かった。

表 1-31

	調査数	ない長期利用だと予測できないから	込み長期利用にならない見込みがあるから	れ超販る過売だと支給が限度見込額を	グーを定頻度とモニタリング	その他	無回答
貸与を提案した理由【複数回答(MA)】	424 100.0	224 52.8	184 43.4	7 1.7	139 32.8	35 8.3	1 0.2



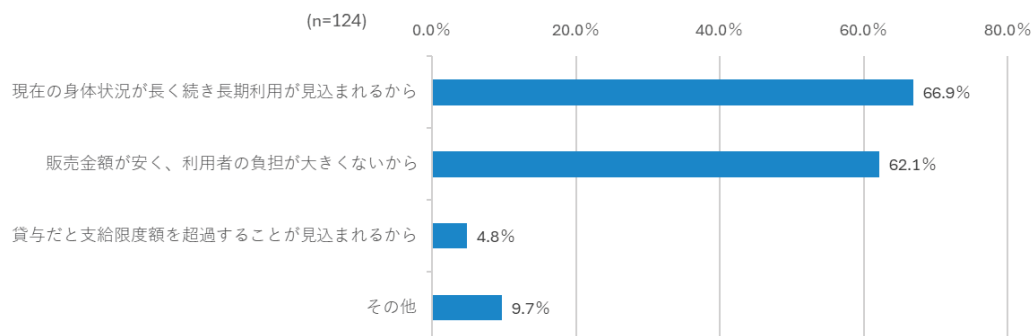
(11) 販売を提案した理由

販売を提案した理由は「現在の身体状況が長く続き長期利用が見込まれるから」と「販売金額が安く、利用者の負担が大きくないから」が同程度であった。

表 1-32

	調 査 数	現在の 長期身 利 用状 況が 見 込 ま れ る か	販売 金額 が 大 安 く 、 利 用 者 の 負 担 が 大 き く な い か	超過 する か	貸与 だと 支 給 限 度 額 を 超 越 す こ と が 見 込 ま れ る か	そ の 他
販売を提案した理由【複数回答(MA)】 +その他主要内容	124 100.0	83 66.9	77 62.1	6 4.8	12 9.7	

※「その他」の主要内容:『本人希望(3件)』、『評価者がいない(1件)』

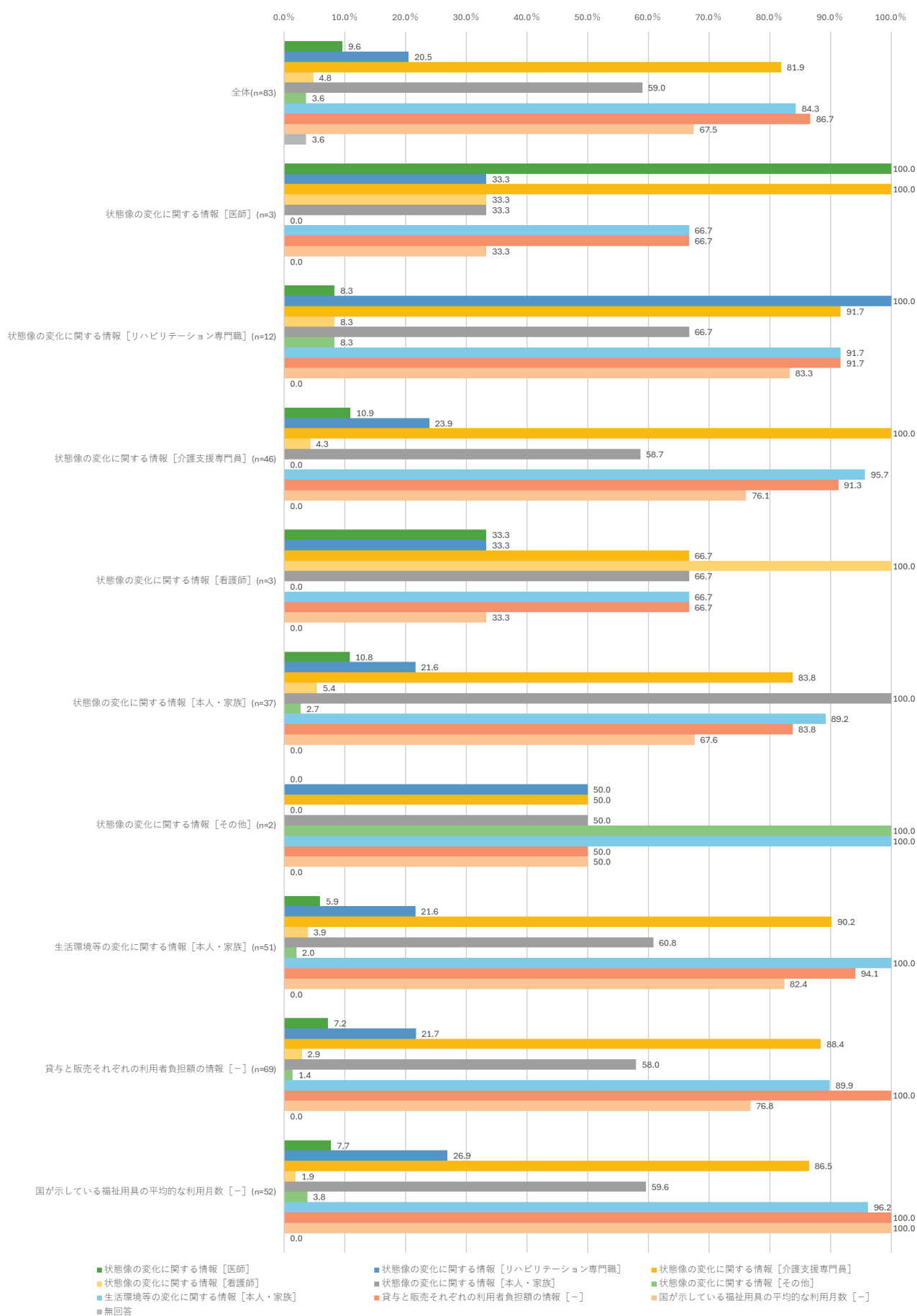


販売を提案した理由が、「現在の身体状況が長く続き長期利用が見込まれるから」と回答した人の、利用者へ提供した情報が「医師による状態像の変化に関する情報」、「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」、「看護師による状態像の変化に関する情報」の場合の情報の入手先は「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」が最も多かった。利用者へ提供した情報が「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」、「介護支援専門員による状態像の変化に関する情報」、「看護師による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による状態像の変化に関する情報」、「状態像の変化に関する情報(その他)」、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」の場合の情報の入手先は「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」が最も多かった。利用者へ提供した情報が「リハビリテーション専門職による状態像の変化に関する情報」、「看護師による状態像の変化に関する情報」、「本人・家族による生活環境等の変化に関する情報」、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」の場合の情報の入手先は、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」が最も多かった。

表 1-33

販売を提案した理由:「現在の身体状況が長く続き長期利用が見込まれるから」
情報の入手【複数回答(MA)】

	調査数	状態像 〔医師 の変化に 関する〕	状態像 〔リハ ビリテ ーション 専門職 の変化に 関する〕	状態像 〔介護 支援に 関する 専門員〕	状態像 〔看護 師の 変化に 関する〕	状態像 〔本人・ 家族に 関する〕	状態像 〔その他〕	生活 環境等 の変化に 関する〔 本人・家 族〕	貸与と 販売の 負担額 の情 報〔 本人・家 族〕	国が 示して いる 福祉 用具 の平 均的 な利 用 月 数	無 回 答
全体	83 100.0	8 9.6	17 20.5	68 81.9	4 4.8	49 59.0	3 3.6	70 84.3	72 86.7	56 67.5	3 3.6
利用者 への 提供 【 複 数 回 答 （ M A ） 】	状態像の変化に関する情報〔医師〕	3 100.0	3 100.0	1 33.3	3 100.0	1 33.3	1 33.3	2 66.7	2 66.7	1 33.3	—
	状態像の変化に関する情報〔リハビリテーション専門職〕	12 100.0	1 8.3	12 100.0	11 91.7	1 8.3	8 66.7	1 8.3	11 91.7	10 83.3	—
	状態像の変化に関する情報〔介護支援専門員〕	46 100.0	5 10.9	11 23.9	46 100.0	2 4.3	27 58.7	—	44 95.7	35 76.1	—
	状態像の変化に関する情報〔看護師〕	3 100.0	1 33.3	1 33.3	2 66.7	3 100.0	2 66.7	—	2 66.7	1 33.3	—
	状態像の変化に関する情報〔本人・家族〕	37 100.0	4 10.8	8 21.6	31 83.8	2 5.4	37 100.0	1 2.7	33 89.2	25 67.6	—
	状態像の変化に関する情報〔その他〕	2 100.0	—	1 50.0	1 50.0	—	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	—
	生活環境等の変化に関する情報〔本人・家族〕	51 100.0	3 5.9	11 21.6	46 90.2	2 3.9	31 60.8	1 2.0	51 100.0	42 82.4	—
	貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報〔—〕	69 100.0	5 7.2	15 21.7	61 88.4	2 2.9	40 58.0	1 1.4	62 89.9	53 76.8	—
	国が示している福祉用具の平均的な利用月数〔—〕	52 100.0	4 7.7	14 26.9	45 86.5	1 1.9	31 59.6	2 3.8	50 96.2	52 100.0	—



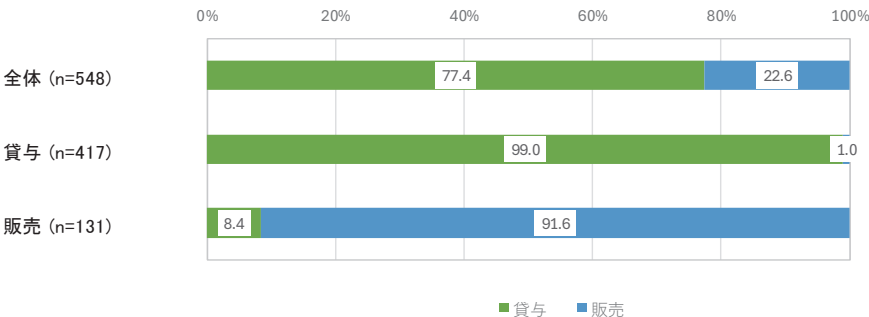
(12) 対象福祉用具の利用開始に関する情報

対象福祉用具の利用開始に関する情報の提案内容について、調査対象の福祉用具が貸与の場合の提案内容は、「貸与」が 99.0%で「販売」が 1.0%であった。調査対象の福祉用具が販売の場合の提案内容は、「貸与」が 8.4%で「販売」が 91.6%であった。

表 1-34

提案内容		調査数	貸与	販売
全体		548	424	124
		100.0	77.4	22.6
調査対象の福祉用具は貸与・販売のどちらですか。【単一回答(SA)】	貸与	417	413	4
		100.0	99.0	1.0
	販売	131	11	120
		100.0	8.4	91.6

※提案が貸与で調査対象が販売となった11件の種目内訳：歩行器1件、固定用スロープ5件、多点杖5件
 ※提案が販売で調査対象が貸与となった4件の種目内訳：固定用スロープ2件、多点杖2件



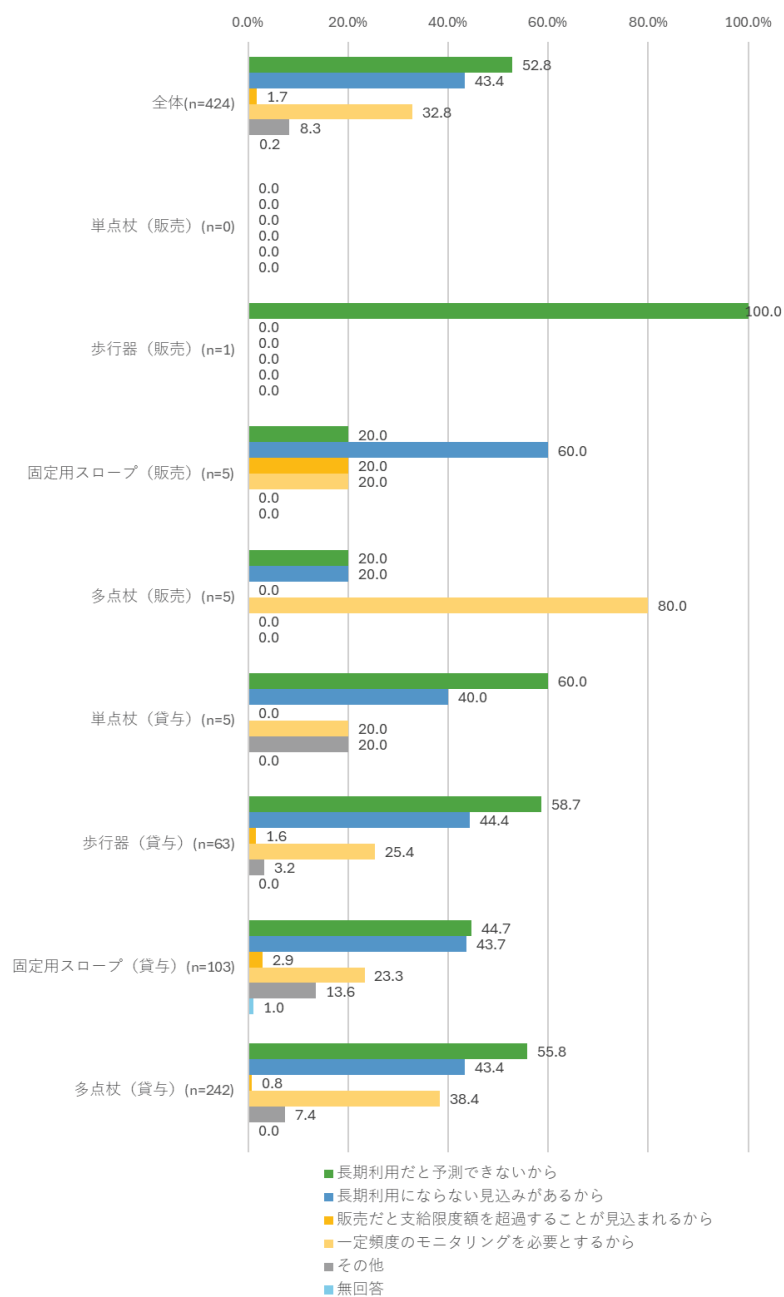
(13) 貸与を提案した理由

貸与を提案した理由については、歩行器(販売)、単点杖(貸与)、歩行器(貸与)、固定用スロープ(貸与)、多点杖(貸与)は「長期利用だと予測できないから」が最も多く、固定用スロープ(販売)は「長期利用にならない見込みがあるから」が最も多かった。多点杖(販売)は、「長期利用だと予測できないから」と「長期利用にならない見込みがあるから」が 20.0%であった。

表 1-35

貸与を提案した理由【複数回答(MA)】

		調査数	な長期利用だと予測できない	長期利用にならない見込みがある	販売だと支給限度額を超えるから	一定頻度のモニタリングを必要とするから	その他	無回答
全体		424 100.0	224 52.8	184 43.4	7 1.7	139 32.8	35 8.3	1 0.2
回答対象福祉用具	単点杖(販売)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
	歩行器(販売)	1 100.0	1 100.0	— —	— —	— —	— —	— —
	固定用スロープ(販売)	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	— —	— —
	多点杖(販売)	5 100.0	1 20.0	1 20.0	— —	4 80.0	— —	— —
	単点杖(貸与)	5 100.0	3 60.0	2 40.0	— —	1 20.0	1 20.0	— —
	歩行器(貸与)	63 100.0	37 58.7	28 44.4	1 1.6	16 25.4	2 3.2	— —
	固定用スロープ(貸与)	103 100.0	46 44.7	45 43.7	3 2.9	24 23.3	14 13.6	1 1.0
	多点杖(貸与)	242 100.0	135 55.8	105 43.4	2 0.8	93 38.4	18 7.4	— —



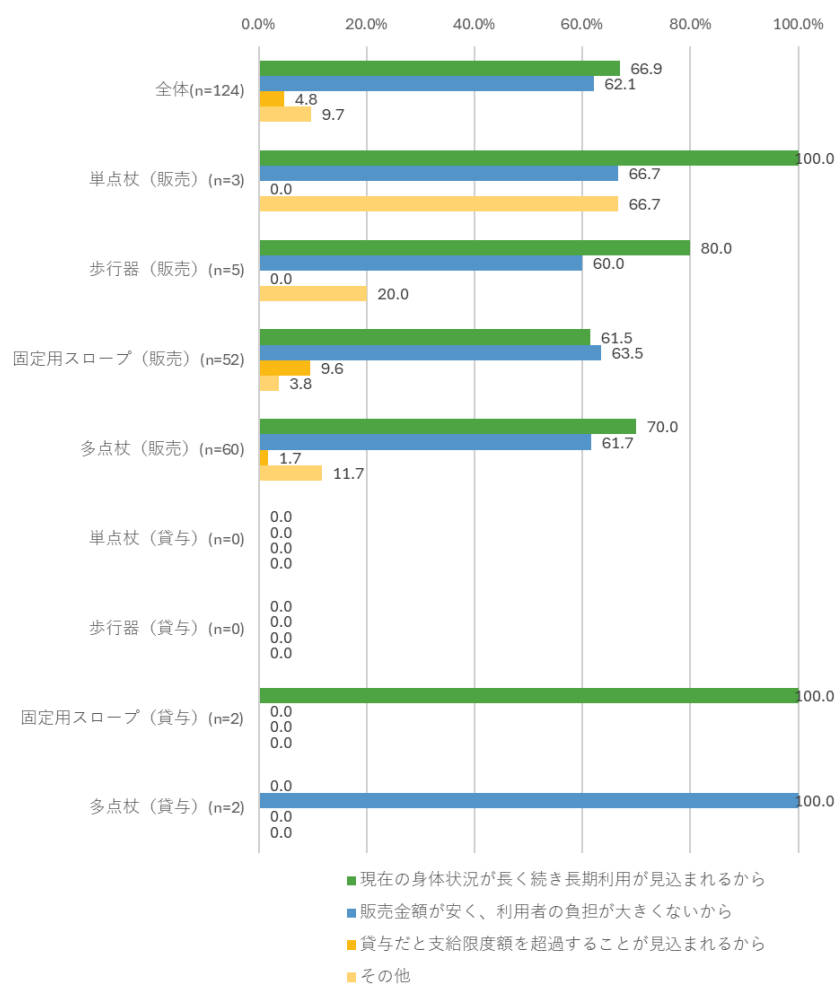
(14) 販売を提案した理由

販売を提案した理由については、「単点杖(販売)」、「歩行器(販売)」、「多点杖(販売)」、「固定用スロープ(貸与)」が「現在の身体状況が長く続き長期利用が見込まれるから」が最も多く、「固定用スロープ(販売)」、「単点杖(貸与)」、「歩行器(貸与)」、「多点杖(貸与)」が「販売金額が安く、利用者の負担が大きくなりから」が最も多かった。

表 1-36

販売を提案した理由【複数回答(MA)】

		調査数	現在の身体状況が見込まれるから	販売金額が安く、利用者の負担が大きいから	貸与だと支給限度額を超えることが見込まれるから	その他
全体		124 100.0	83 66.9	77 62.1	6 4.8	12 9.7
回答対象福祉用具	単点杖(販売)	3 100.0	3 100.0	2 66.7	— —	2 66.7
	歩行器(販売)	5 100.0	4 80.0	3 60.0	— —	1 20.0
	固定用スロープ(販売)	52 100.0	32 61.5	33 63.5	5 9.6	2 3.8
	多点杖(販売)	60 100.0	42 70.0	37 61.7	1 1.7	7 11.7
	単点杖(貸与)	— —	— —	— —	— —	— —
	歩行器(貸与)	— —	— —	— —	— —	— —
	固定用スロープ(貸与)	2 100.0	2 100.0	— —	— —	— —
	多点杖(貸与)	2 100.0	— —	2 100.0	— —	— —



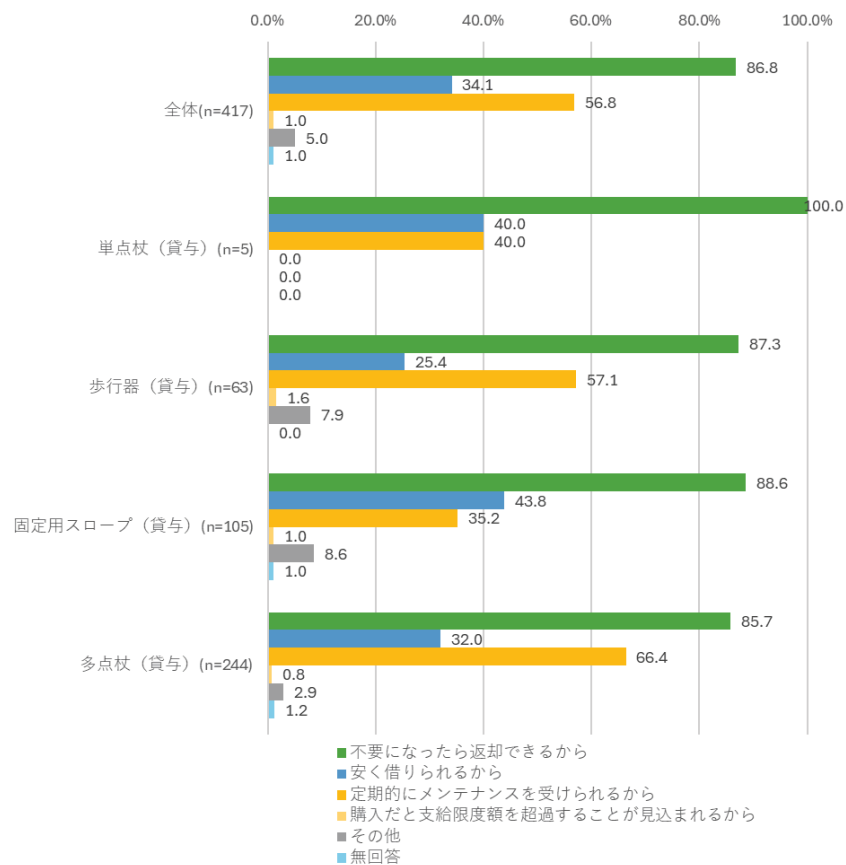
(15) 利用者に対する質問

貸与(レンタル)を選択した理由については、いずれも「不要になったら返却できるから」が最も多かった。

表 1-37

貸与(レンタル)選択した理由を教えてください。【複数回答(MA)】

	調査数	不要になったら返却できるから	安く借りられるから	定期的にメンテナンスを受けられるから	購入だと支給限度額を超過することが見込まれるから	その他	無回答
全体	417	362	142	237	4	21	4
	100.0	86.8	34.1	56.8	1.0	5.0	1.0
回答対象福祉用具	単点杖(貸与)	5	5	2	—	—	—
		100.0	100.0	40.0	—	—	—
	歩行器(貸与)	63	55	16	36	5	—
		100.0	87.3	25.4	57.1	7.9	—
固定用スロープ(貸与)	105	93	46	37	1	9	1
		100.0	88.6	43.8	1.0	8.6	1.0
多点杖(貸与)	244	209	78	162	2	7	3
		100.0	85.7	66.4	0.8	2.9	1.2

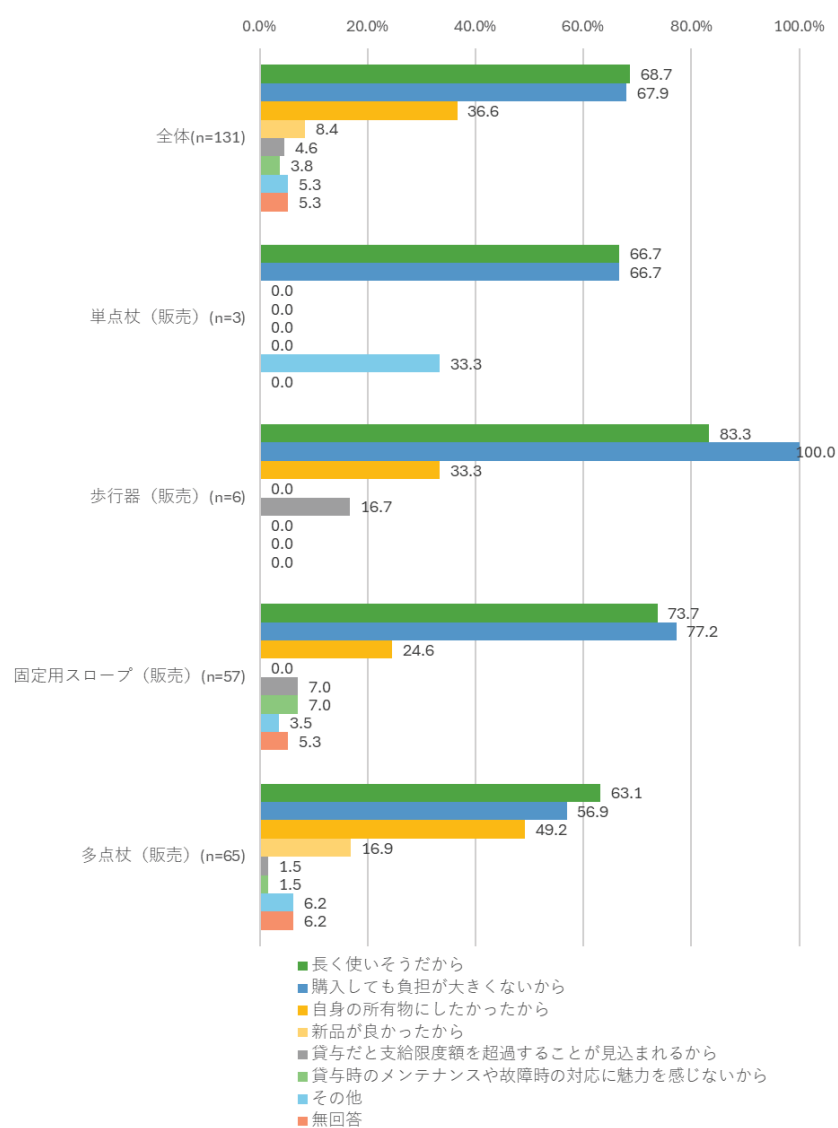


購入を選択した理由については、歩行器、固定用スロープは「購入しても負担が大きくないから」が最も多かった。多点杖は「長く使いそうだから」が最も多かった。単点杖は「購入しても負担が大きくないから」「長く使いそうだから」が 66.7%と同率で多かった。

表 1-38

購入を選択した理由を教えてください。【複数回答(MA)】

		調査数	長く使いそうだから	購入しないから負担が大き	自身の所有物にした	新品が良かったから	超過する支給限度額を超えるから	貸与時のメンテナンスに力を入れているから	その他	無回答
全体		131 100.0	90 68.7	89 67.9	48 36.6	11 8.4	6 4.6	5 3.8	7 5.3	7 5.3
回答対象福祉用具	単点杖(販売)	3 100.0	2 66.7	2 66.7	— —	— —	— —	— —	1 33.3	— —
	歩行器(販売)	6 100.0	5 83.3	6 100.0	2 33.3	— —	1 16.7	— —	— —	— —
	固定用スロープ(販売)	57 100.0	42 73.7	44 77.2	14 24.6	— —	4 7.0	4 7.0	2 3.5	3 5.3
	多点杖(販売)	65 100.0	41 63.1	37 56.9	32 49.2	11 16.9	1 1.5	1 1.5	4 6.2	4 6.2



2.2 第2回調査(令和6年11月実施分)

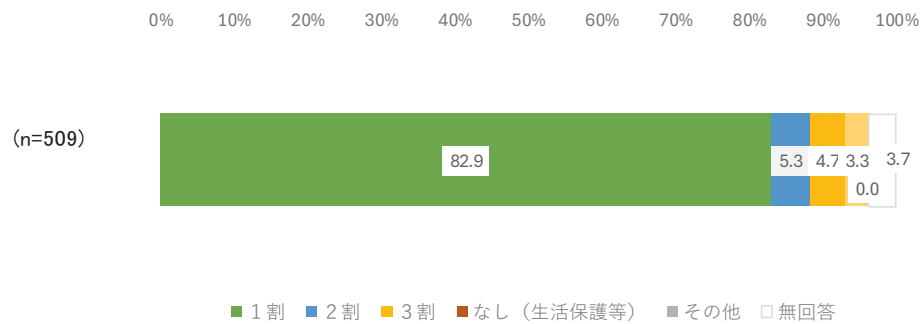
2.2.1 相談員票(表2)

(1) 自己負担割合【単一回答(SA)】

自己負担割合は「1割」が82.9%最も多く、次いで「2割」が多かった。

表 2-01

	調査数	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	その他	無回答
自己負担割合【単一回答(SA)】	509 100.0	422 82.9	27 5.3	24 4.7	17 3.3	— —	19 3.7

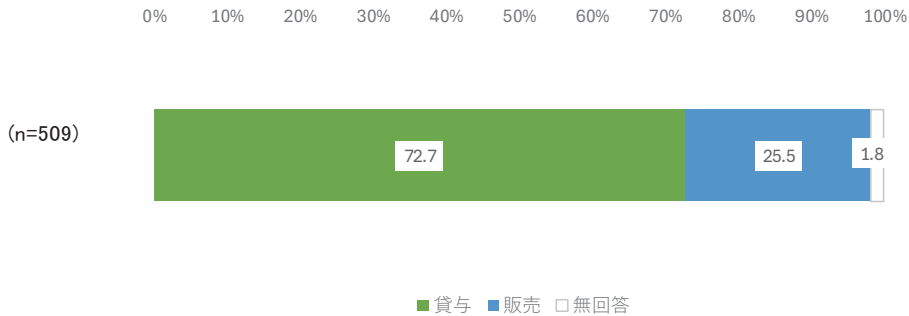


(2) 5月の調査対象福祉用具は貸与・販売のどちらでしたか。【単一回答(SA)】

5月の調査対象福祉用具は「貸与」が 72.7%、「販売」が 25.5%と「貸与」の方が「販売」に比べて多かった。

表 2-02

	調査数	貸与	販売	無回答
5月の調査対象福祉用具は貸与・販売のどちらでしたか。【単一回答(SA)】	509	370	130	9
	100.0	72.7	25.5	1.8

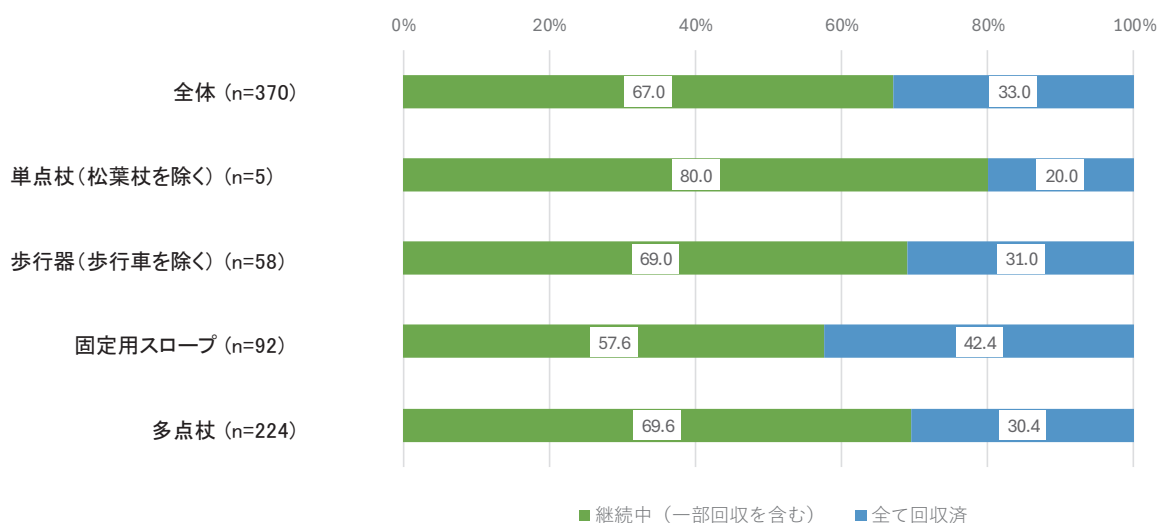


(3) モニタリング実施又は全て回収時点の状況について

モニタリング実施又は全て回収時点の状況については、全体として「モニタリングを継続中」が67.0%と「すべて回収済み」よりも多かった。

表 2-03

		調査数	継続中（一部回収を含む）	全て回収済
全体		370 100.0	248 67.0	122 33.0
選択開始した福祉用具（貸与）	単点杖（松葉杖を除く）	5 100.0	4 80.0	1 20.0
	歩行器（歩行車を除く）	58 100.0	40 69.0	18 31.0
	固定用スロープ	92 100.0	53 57.6	39 42.4
	多点杖	224 100.0	156 69.6	68 30.4



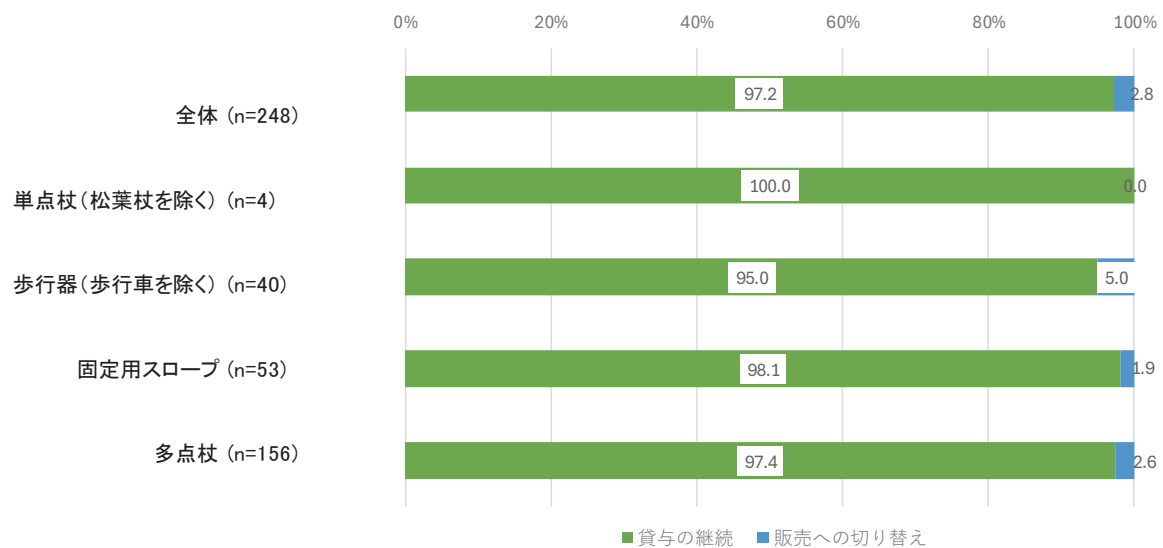
(4) 貸与継続の検討の結果

貸与継続の検討の結果は、全体として「貸与の継続」が97.2%と「販売への切り替え」よりも多かった。

表 2-04

貸与継続の検討の結果【単一回答(SA)】

		調査数	貸与の継続	販売への切り替え
全体		248	241	7
		100.0	97.2	2.8
選択開始した福祉用具（貸与）	単点杖（松葉杖を除く）	4	4	0
		100.0	100.0	0.0
	歩行器（歩行車を除く）	40	38	2
		100.0	95.0	5.0
固定用スロープ		53	52	1
		100.0	98.1	1.9
多点杖		156	152	4
		100.0	97.4	2.6



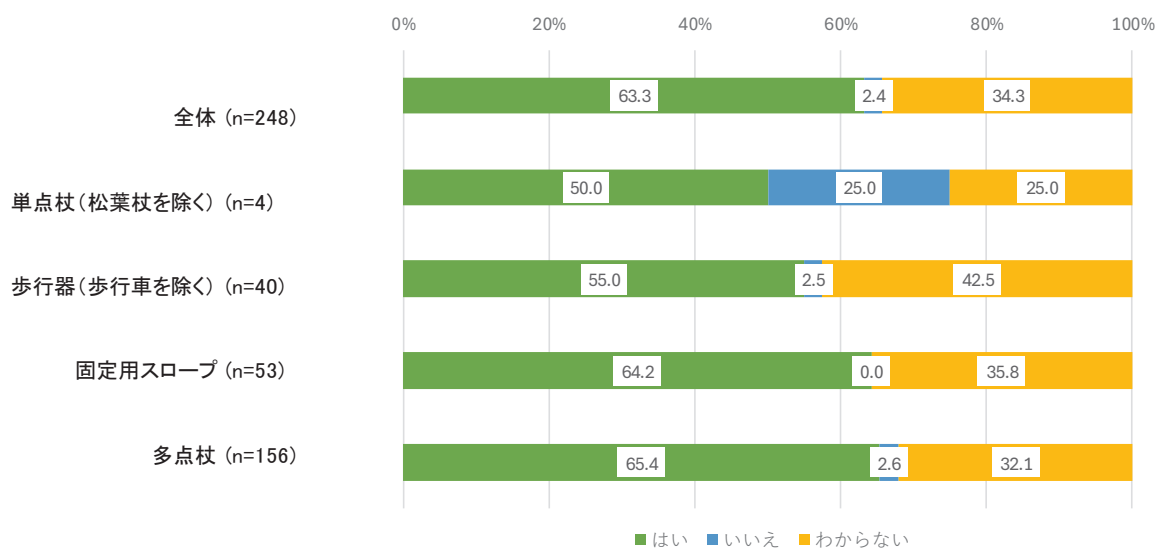
(5) 利用者に対する質問:本年5月に福祉用具を貸与か購入か選択できて良かったですか？

福祉用具を貸与か購入か選択できて良かったかどうかについては、全体として「はい」が63.3%と多く、次いで「わからない」が33.3%と多かった。

表 2-05

利用者に対する質問:本年5月に福祉用具を貸与か購入か選択できて良かったですか？【単一回答(SA)】

		調査数	はい	いいえ	わからない
全体		248 100.0	157 63.3	6 2.4	85 34.3
選択開始判断後に利用した福祉用具（貸与）	単点杖（松葉杖を除く）	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0
	歩行器（歩行車を除く）	40 100.0	22 55.0	1 2.5	17 42.5
	固定用スロープ	53 100.0	34 64.2	0 0.0	19 35.8
	多点杖	156 100.0	102 65.4	4 2.6	50 32.1



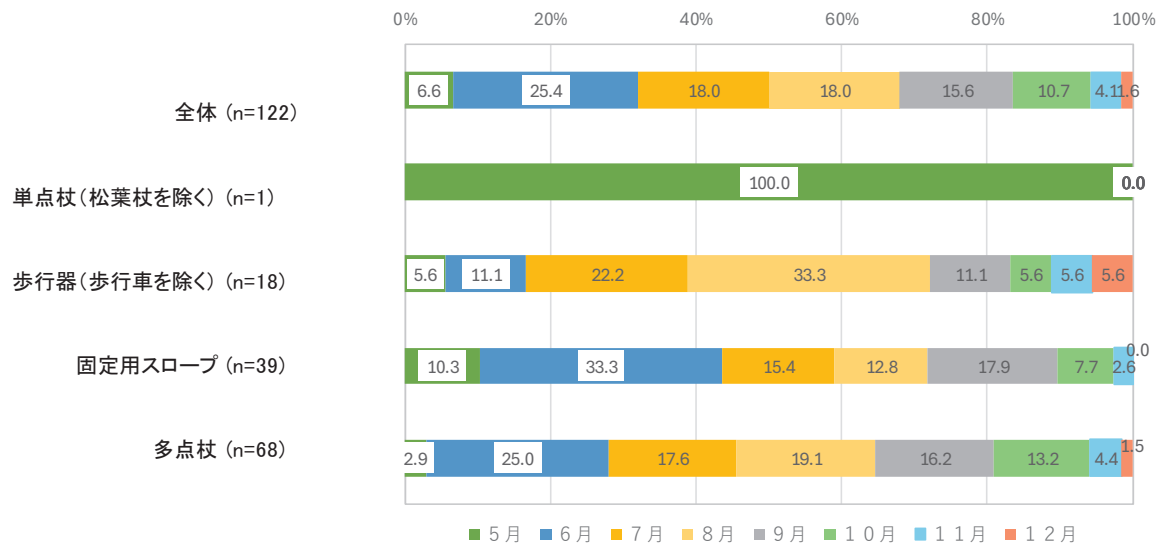
(6) 貸与終了月

貸与終了月は「単点杖(松葉杖を除く)」は5月が100%、「歩行器(歩行車を除く)」は8月が33.3%、「固定用スロープ」は6月が33.3%、「多点杖」は6月が25.0%で最も多かった。

表 2-06

貸与終了月

	調査数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体	122	8	31	22	22	19	13	5	2
	100.0	6.6	25.4	18.0	18.0	15.6	10.7	4.1	1.6
選 用 開 始 制 断 後 に 利 用 す る 具 （ 貸 与 ）	単点杖(松葉杖を除く)	1	1	—	—	—	—	—	—
		100.0	100.0	—	—	—	—	—	—
	歩行器(歩行車を除く)	18	1	2	4	6	2	1	1
		100.0	5.6	11.1	22.2	33.3	11.1	5.6	5.6
固定用スロープ		39	4	13	6	5	7	3	1
		100.0	10.3	33.3	15.4	12.8	17.9	7.7	2.6
多点杖		68	2	17	12	13	11	9	3
		100.0	2.9	25.0	17.6	19.1	16.2	13.2	4.4

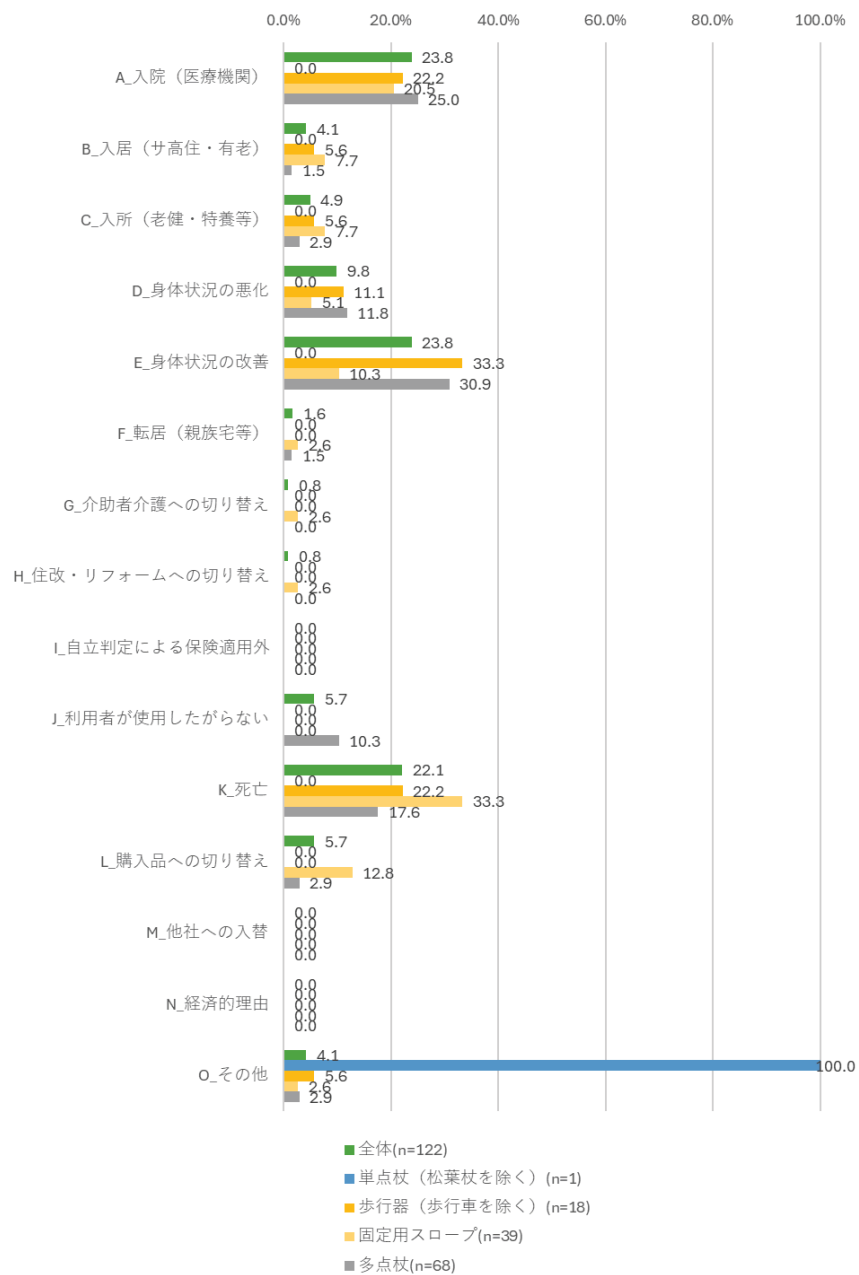


選択制判断後に利用開始した福祉用具(貸与)の回収した理由については、単点杖(松葉杖を除く)と歩行器(歩行車を除く)、多点杖は「身体状況の改善」が最も多く、固定用スロープは「死亡」が最も多かった。

表 2-07

回収した理由【複数回答(MA)】

		調査数	A 入院 (医療機関)	B 入居 (サ高住・有 老)	C 入所 (老健・特 養等)	D 身体 状況の悪 化	E 身体 状況の改 善	F 転居 (親族宅等)	G 介 助者 介護への 切 替
全体		122 100.0	29 23.8	5 4.1	6 4.9	12 9.8	29 23.8	2 1.6	1 0.8
用選 具開 始制 判 断 後 に 用 利 (貸与)	単点杖(松葉杖を除く)	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	歩行器(歩行車を除く)	18 100.0	4 22.2	1 5.6	1 5.6	2 11.1	6 33.3	- -	- -
	固定用スロープ	39 100.0	8 20.5	3 7.7	3 7.7	2 5.1	4 10.3	1 2.6	1 2.6
	多点杖	68 100.0	17 25.0	1 1.5	2 2.9	8 11.8	21 30.9	1 1.5	- -
		H 住 改・リ の切 替 フ ォ ーム	I 自 立 判 定 に よ る 保 険 適 用 外	J 利 用 者 が 使 用 し た が ら な い	K 死 亡	L 購 入 品 へ の 切 り 替 え	M 他 社 へ の 入 替	N 経 済 的 理 由	O そ の 他
全体		1 0.8	- -	7 5.7	27 22.1	7 5.7	- -	- -	5 4.1
用選 具開 始制 判 断 後 に 用 利 (貸与)	単点杖(松葉杖を除く)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0
	歩行器(歩行車を除く)	- -	- -	- -	4 22.2	- -	- -	- -	1 5.6
	固定用スロープ	1 2.6	- -	- -	13 33.3	5 12.8	- -	- -	1 2.6
	多点杖	- -	- -	7 10.3	12 17.6	2 2.9	- -	- -	2 2.9

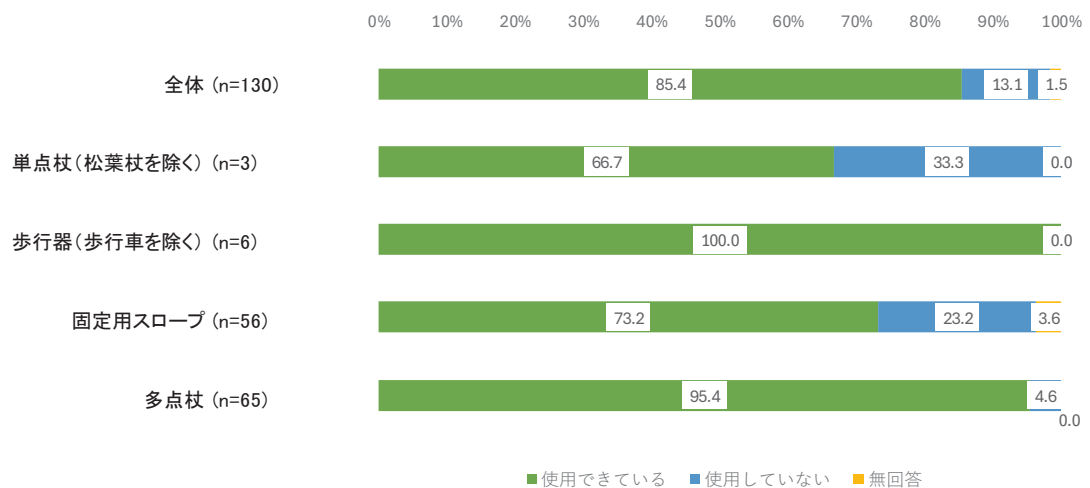


(7) 調査対象福祉用具の使用状況

選択制判断後に利用開始した調査対象福祉用具(販売)の使用状況については、いずれも「使用できている」が多かった。

表 2-08

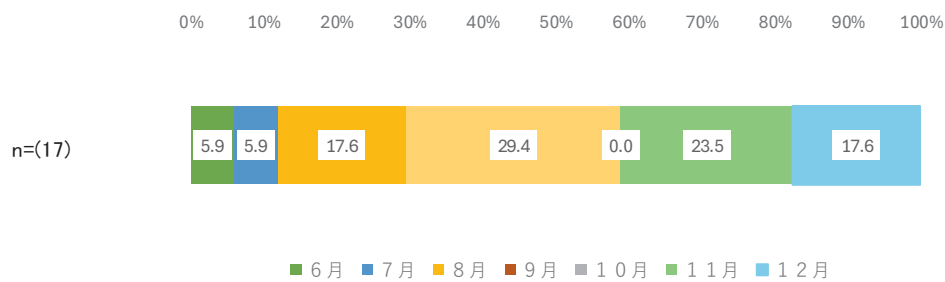
	調査数	使用できている	使用していない	無回答
全体	130 100.0	111 85.4	17 13.1	2 1.5
回答対象福祉用具 (販売)				
単点杖(松葉杖を除く)	3 100.0	2 66.7	1 33.3	— —
歩行器(歩行車を除く)	6 100.0	6 100.0	— —	— —
固定用スロープ	56 100.0	41 73.2	13 23.2	2 3.6
多点杖	65 100.0	62 95.4	3 4.6	— —



購入した用具を使用しなくなった月は、「9月」が29.4%で最も多く、次いで「11月」が23.5%が多かった。

表 2-09

	調査数	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
問2: 貸与終了月	17 100.0	1 5.9	1 5.9	3 17.6	5 29.4	— —	4 23.5	3 17.6

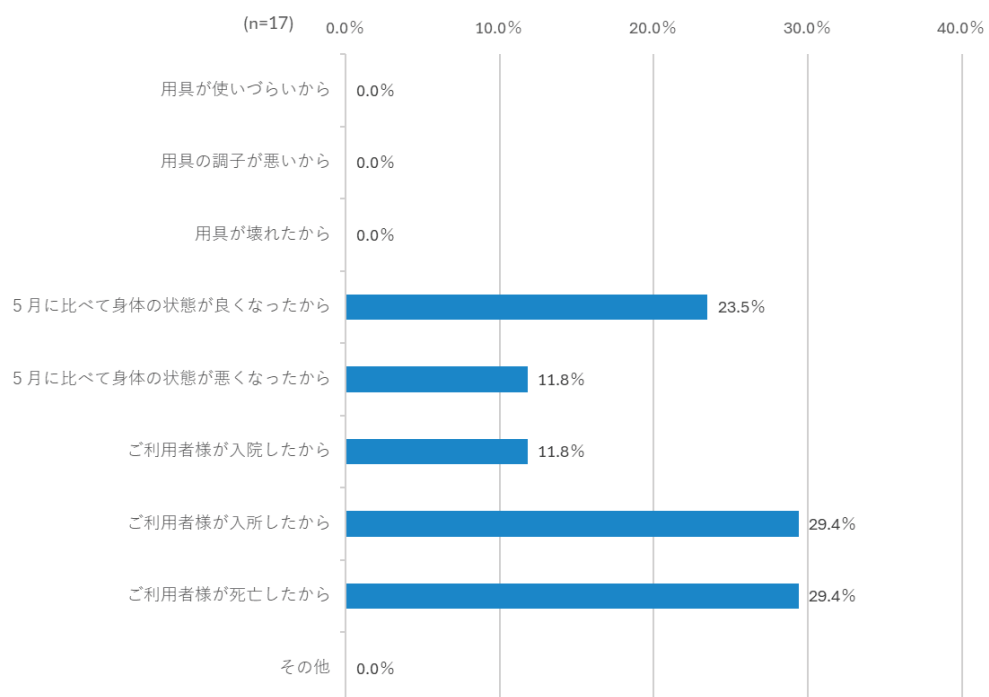


(8) 使用していない理由

使用していない理由は、「ご利用者様が死亡したから」と「ご利用者様が入院したから」が同程度で最も多く、29.4%であった。

表 2-10

	調査数	い用具が使いづら	い用具の調子が悪	ら用具が壊れたか	な体の5月になったから	な体の5月になったから	院ご利用者様が入院したから	所ご利用者様が入院したから	亡ご利用者様が死亡したから	その他
問3: 使用していない理由は何ですか?【複数回答(MA)】	17 100.0	-	-	-	4 23.5	2 11.8	2 11.8	5 29.4	5 29.4	-



(9) 販売した福祉用具の価格

販売した福祉用具の価格は、全体として「15000 円～19999 円」が26. 9%と最も多く、次いで「5000 円～9999 円」が多かった。個別で見ると、単点杖(松葉杖を除く)と固定用スロープは「5000 円～9999 円」が最も多く、多点杖は「15000 円～19999 円」が46.3%で最も多かった。歩行器は「15000 円～19999 円」と「20000 円以上」が 33.3%で最も多かった。平均金額は、「単点杖(松葉杖を除く)」は 8886.7 円、「歩行器(歩行車を除く)」は 21425.0 円、「固定用スロープ」は 8725.2 円、「多点杖」は 17134.5 円であった。

表 2-11

販売した福祉用具の価格

		調 査 数	下 5 9 9 9 円 以 上	9 5 0 0 円 以 上	1 1 4 0 9 0 9 0 円 以 上	1 1 9 5 0 0 9 0 円 以 上	上 2 0 0 0 円 以 上
全体		130 100.0	17 13.1	31 23.8	29 22.3	35 26.9	18 13.8
用 選 開 択 始 判 了 断 後 社 に 利 用	単点杖(松葉杖を除く)	3 100.0	— —	2 66.7	1 33.3	— —	— —
	歩行器(歩行車を除く)	6 100.0	— —	1 16.7	1 16.7	2 33.3	2 33.3
	固定用スロープ	56 100.0	17 30.4	25 44.6	7 12.5	2 3.6	5 8.9
	多点杖	67 100.0	— —	3 4.5	20 29.9	31 46.3	13 19.4

表 2-12

販売した福祉用具の価格

		調 査 数	平 均	標 準 偏 差	最 小 値	最 大 値
全体		130	13279	7323	2800	38600
用 選 開 択 始 判 了 断 後 社 に 利 用	単点杖(松葉杖を除く)	3	8887	799	8160	10000
	歩行器(歩行車を除く)	6	21425	10934	6710	36000
	固定用スロープ	56	8725	6891	2800	37500
	多点杖	67	17134	5163	7000	38600

(10) 貸与だった場合の月額料金の

貸与だった場合の月額料金は、全体として「1000 円～1499 円」が52.3%と最も多く、次いで「500 円～999 円」が多かった。個別で見ると、固定用スロープは「500 円～999 円」が64.3%で最も多く、単点杖(松葉杖を除く)と多点杖は「1000 円～1499 円」が最も多かった。歩行器は「1500 円以上」が83.3%で最も多かった。平均金額は単点杖(松葉杖を除く)は1280.0 円、「歩行器(歩行車を除く)」は1988.3 円、「固定用スロープ」は815.7 円、「多点杖」は1240.3 円であった。

表 2-13

貸与だった場合の月額料金の

		調査数	499 円以下	950 円～999 円	1499 円～1999 円	2000 円以上
全体		130	7	37	68	18
		100.0	5.4	28.5	52.3	13.8
選択開始した福祉用具(販売)	単点杖(松葉杖を除く)	3	—	—	2	1
		100.0	—	—	66.7	33.3
	歩行器(歩行車を除く)	6	—	1	—	5
		100.0	—	16.7	—	83.3
	固定用スロープ	56	7	36	4	9
		100.0	12.5	64.3	7.1	16.1
	多点杖	67	—	—	62	5
		100.0	—	—	92.5	7.5

表 2-14

貸与だった場合の月額料金の

		調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
全体		130	1071	569	300	3540
選択開始した福祉用具(販売)	単点杖(松葉杖を除く)	3	1280	214	1000	1520
	歩行器(歩行車を除く)	6	1988	669	610	2700
	固定用スロープ	56	816	617	300	3040
	多点杖	67	1240	434	1000	3540

2.2.2 購入利用者票(表 3)

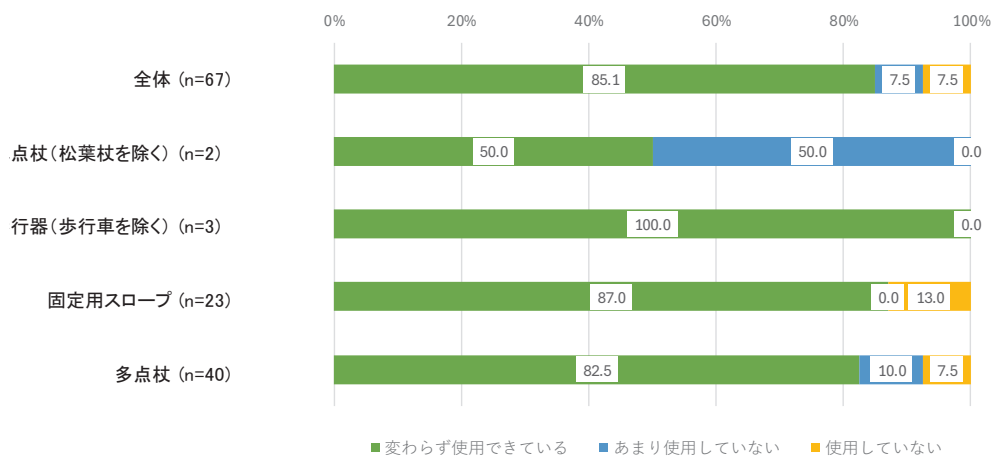
(1) 問1:本年5月に購入された福祉用具は、現在も変わらず使用できていますか？ 【単一回答(SA)】

5月に購入された福祉用具について、現在も変わらず使用できているかは、全体として「変わらず使用できている」が85.1%で最も多かった。個別で見ると、歩行器(歩行車を除く)と固定用スロープ、多点杖は「変わらず使用できている」が多かった。単点杖(松葉杖を除く)については「変わらず使用できている」と「あまり使用していない」が50.0%で同率であった。

表 3-01

問1:本年5月に購入された福祉用具は、現在も変わらず使用できていますか？【単一回答(SA)】

	調査数	変わらず使用できている	あまり使用していない	使用していない
全体	67 100.0	57 85.1	5 7.5	5 7.5
選択開始した福祉用具(販売後に利用)	単点杖(松葉杖を除く)	2 100.0	1 50.0	1 50.0
	歩行器(歩行車を除く)	3 100.0	3 100.0	— —
	固定用スロープ	23 100.0	20 87.0	3 13.0
	多点杖	40 100.0	33 82.5	4 10.0



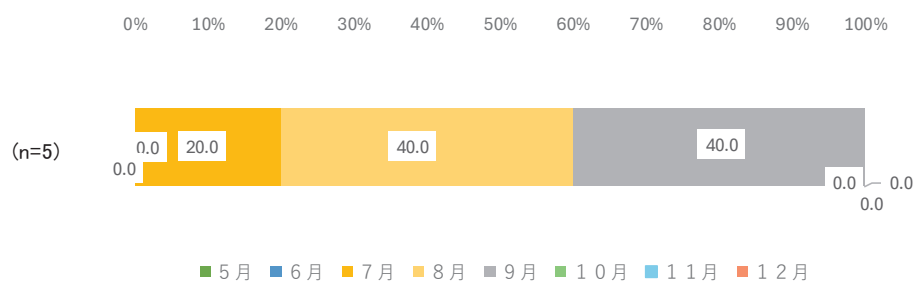
(2) 問 2:いつ頃から使用していないですか?【単一回答(SA)】

使用開始時期については、「8 月」「9 月」が 40.0%で最も多かった。

表 3-02

問2:いつ頃から使用していないですか?【単一回答(SA)】

	調査数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	5 100.0	-	-	1 20.0	2 40.0	2 40.0	-	-	-



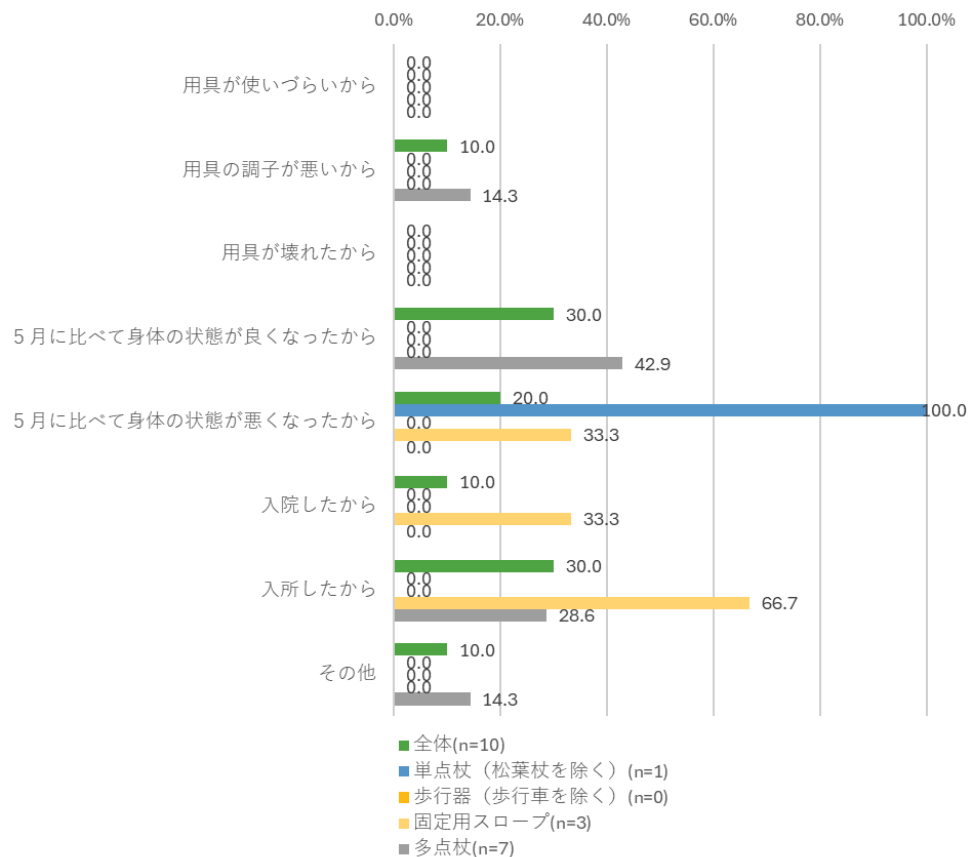
(3) 問3:使用していない理由について

5月に購入された福祉用具を「あまり使用できていない」「使用していない」と回答した理由について、全体として「5月に比べて身体の状態が良くなったから」と「入所したから」が30.0%で最も多かった。個別で見ると、「単点杖(松葉杖を除く)」が「5月に比べて身体の状態が良くなったから」が100.0%、「固定用スロープ」が「入所したから」が66.7%、「多点杖」が「5月に比べて身体の状態が良くなったから」が42.9%と最も多かった。

表3-03

問3:問1でどのように回答した理由について教えてください。【複数回答(MA)】

	調査数	用具が使いづらいから	用具の調子が悪いから	用具が壊れたから	5月に比べて身体の状態が良くなったから	5月に比べて身体の状態が悪くなったから	入院したから	入所したから	その他
全体	10 100.0	- -	1 10.0	- -	3 30.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0
選択開始した福祉用具(販売)	単点杖(松葉杖を除く)	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -
	歩行器(歩行車を除く)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	固定用スロープ	3 100.0	- -	- -	- -	1 33.3	1 33.3	2 66.7	- -
	多点杖	7 100.0	- -	1 14.3	3 42.9	- -	- -	2 28.6	1 14.3



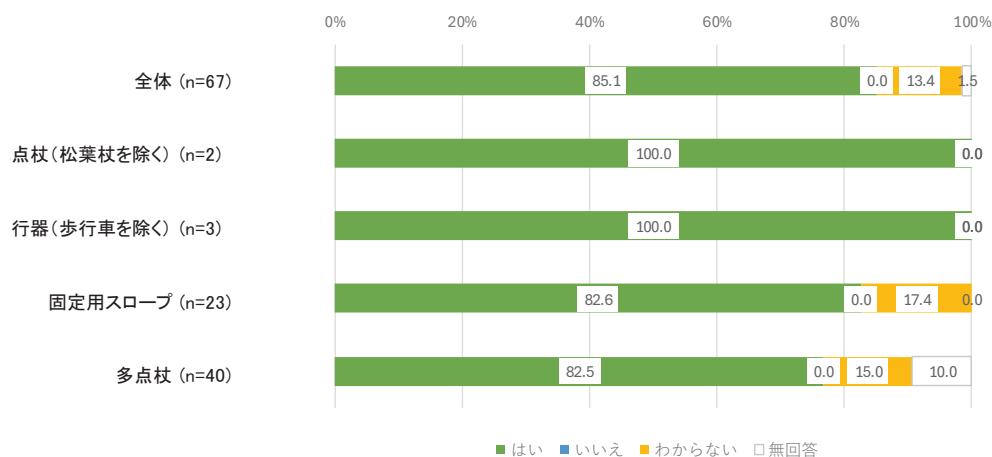
(4) 問4:福祉用具を貸与か購入か選択できて良かったですか?【単一回答(SA)】

福祉用具を貸与か購入か選択できて良かったかどうかについては、いずれも「はい」が多く、「単点杖(松葉杖を除く)」と「歩行器(歩行車を除く)」が100.0%、「固定用スロープ」が82.6%、「多点杖」が82.5%と最も多かった。

表 3-04

問4:本年5月に福祉用具を貸与か購入か選択できて良かったですか?【単一回答(SA)】

		調査数	はい	いいえ	わからない	無回答
全体		67	57	—	9	1
		100.0	85.1	—	13.4	1.5
選択開始した福祉用具(販売)	単点杖(松葉杖を除く)	2	2	—	—	—
		100.0	100.0	—	—	—
	歩行器(歩行車を除く)	3	3	—	—	—
		100.0	100.0	—	—	—
固定用スロープ		23	19	—	4	—
		100.0	82.6	—	17.4	—
多点杖		40	33	—	6	1
		100.0	82.5	—	15.0	2.5



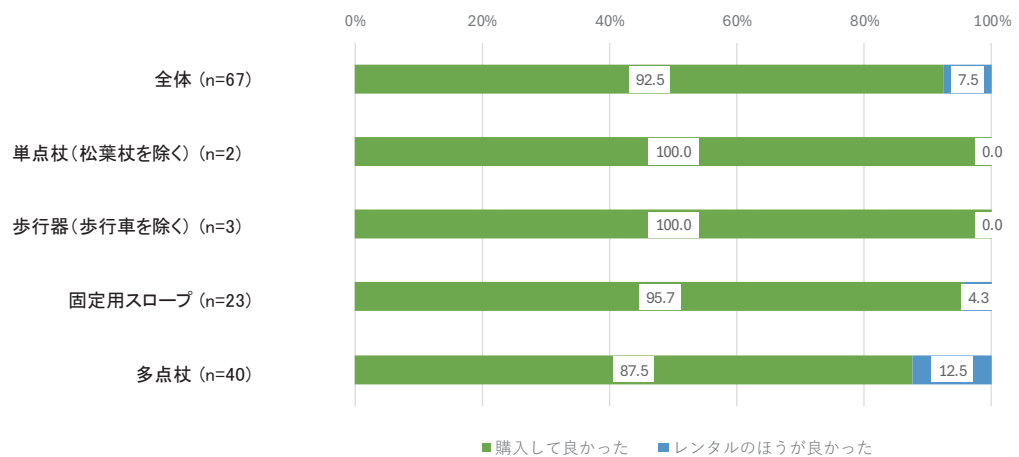
(5) 問5:購入して良かったと感じていますか?【単一回答(SA)】

レンタルではなく、購入して良かったと感じているかどうかについては、いずれも「購入して良かった」が多く、「単点杖(松葉杖を除く)」と「歩行器(歩行車を除く)」が100.0%、「固定用スロープ」が95.7%、「多点杖」が87.5%であった。

表 3-05

問5:レンタルではなく、購入して良かったと感じていますか?【単一回答(SA)】

		調査数	購入して良かった	レンタルの方が良かった
全体		67 100.0	62 92.5	5 7.5
用具 (販売) 開始 判断 断後 社に 利用	単点杖(松葉杖を除く)	2 100.0	2 100.0	— —
	歩行器(歩行車を除く)	3 100.0	3 100.0	— —
	固定用スロープ	23 100.0	22 95.7	1 4.3
	多点杖	40 100.0	35 87.5	5 12.5

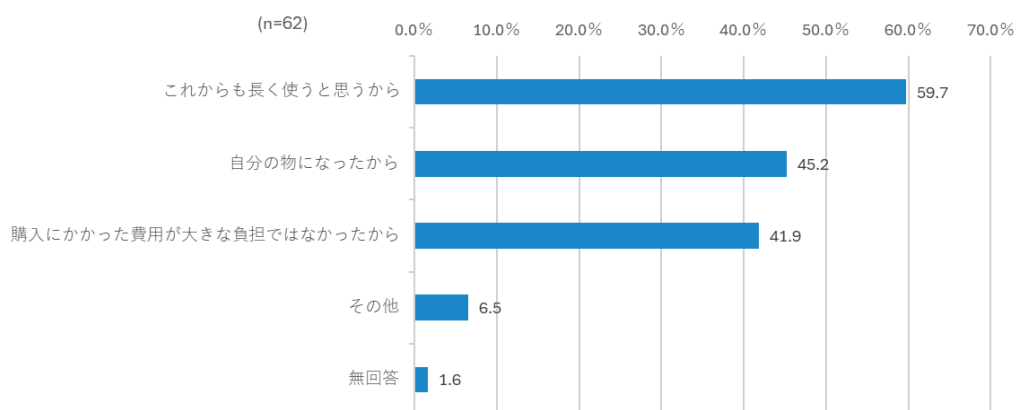


(6) 購入して良かった理由【複数回答(MA)】

購入して良かった理由については、「これからも長く使うと思うから」が 59.7%で多く、次いで「自分の物になったから」が 45.2%で多かった。

表 3-06

	調査数	これから もう長く 使うと 思うから	自分の 物になっ たから	購入にか かった費 用が大き な負担で はなかつ たから	その他	無回答
購入して良かった理由【複数回答(MA)】	62 100.0	37 59.7	28 45.2	26 41.9	4 6.5	1 1.6

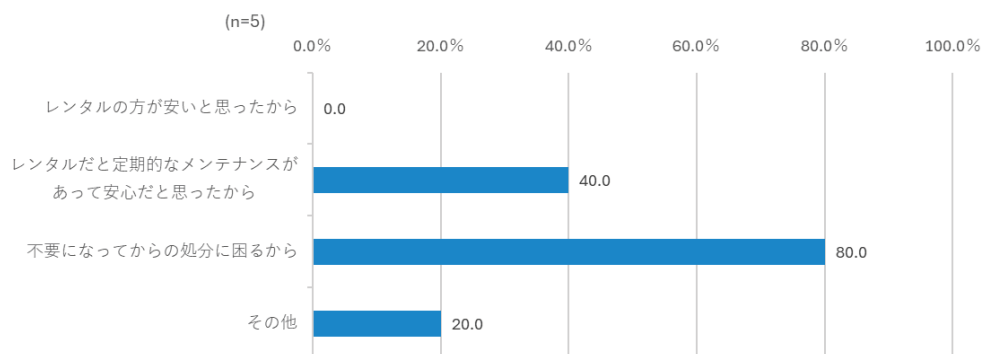


(7) レンタルのほうが良かった理由【複数回答(MA)】

レンタルのほうが良かった理由については、「不要になってからの処分に困るから」が 80.0%で多く、次いで「レンタルだと定期的なメンテナンスがあって安心だと思ったから」が 40.0%で多かった。

表 3-07

	調査数	レンタルの方が安いと思う	レンタルだと定期的なメンテナンスが安心だと思	不要になってからの処分に困るから	その他
レンタルのほうが良かった理由【複数回答(MA)】	5 100.0	— —	2 40.0	4 80.0	1 20.0



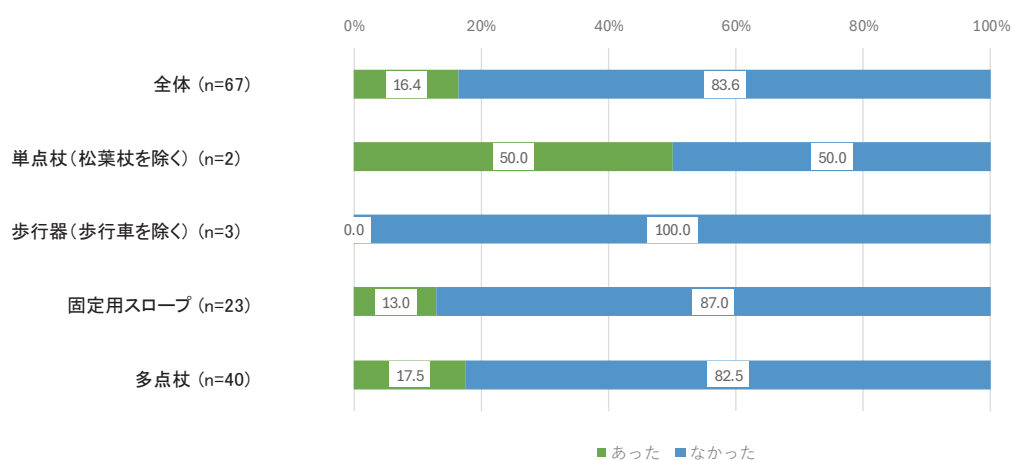
(8) 問 6:福祉用具を利用して、転倒などの危険を感じたことがありましたか？
【単一回答(SA)】

福祉用具を利用して、転倒などの危険を感じたことがあったかどうかについて、全体では「なかった」が 83.6% で多かった。個別で見ると、歩行器(歩行車を除く)と固定用スロープ、多点杖は「なかった」が多かったが、単点杖(松葉杖を除く)については「あった」と「なかった」が 50.0% で同程度であった。

表 3-08

問6:福祉用具を利用して、転倒などの危険を感じたことがありましたか？【単一回答(SA)】

		調査数	あった	なかった
全体		67	11	56
		100.0	16.4	83.6
用選 開択 始制 し判 た断 福後 祉に 用利	単点杖(松葉杖を除く)	2	1	1
		100.0	50.0	50.0
	歩行器(歩行車を除く)	3	-	3
		100.0	-	100.0
固定用スロープ		23	3	20
		100.0	13.0	87.0
多点杖		40	7	33
		100.0	17.5	82.5



2.3 相談員に対するヒアリング

(1) ヒアリング 1(貸与提案に対して購入を選択)

内容
他の介護保険サービスの利用がなく担当ケアマネジャーがついておらず、福祉用具貸与のためだけのケアマネジャー依頼は必要がないとご家族のご家族判断があった。室内での寝室からトイレまでの移動に使用する目的で導入した為、劣化のリスクが少ないとの判断があった。(多点杖)
レンタル成約時の帳票類が煩雑であることに加えて、定期的に訪問されることが煩わしいというご意向から購入を選択された。(多点杖)
通常は独歩が可能でたまにふらつきがある程度の方。2割負担であったが購入は安価であり、今後長期利用が見込まれることから、貸与ではなく購入を選択されました。ご本人の物忘れにより、無くしてしまう可能性がある(「独歩可能」ということで尚更どこかに置いてくる可能性あり)とのことから、レンタルの紛失時に弁償することを考えれば初めから自分のものにしたいとのご意向であった。(多点杖)
転倒による痛みの増悪がきっかけで四点杖の利用希望がありました。既往歴に両膝変形性関節症があり、完治はないため一時的な利用ではなく長期にわたって四点杖を利用したいという気持ちだと推測しています。(多点杖)
選定の際にレンタルと購入のそれぞれメリット・デメリットをご説明しましたが、「人が使用したものが嫌」、「購入で介護保険を利用できるならそうしたい」とのことから購入を選択されました。(多点杖)
長く使うようであれば購入してしまった方が得であるとお考えから購入を選択されました。(固定用スロープ)
レンタルでもそこまで大きな金額は発生しないものの、どちらを選んでも安いなら購入してしまうというご判断で購入を選択されました。レンタルによる継続的な関わりに対する抵抗があるとの事でした。(固定用スロープ)
自身の状態は今後大きく変わらないので、購入してしまえば毎月の支払いが無くなるからとの判断から購入を判断されました。(固定用スロープ)
「高齢とはいえ元気だから簡単に変化しない」とのお考えをお持ちで、保険使用で購入できるなら毎月料金が発生するレンタルより新品を気持ちよく活用したいという意向が強かったです。(歩行器)

(2) ヒアリング 2(11 月までの間に貸与品を回収し、販売へ切り替え)

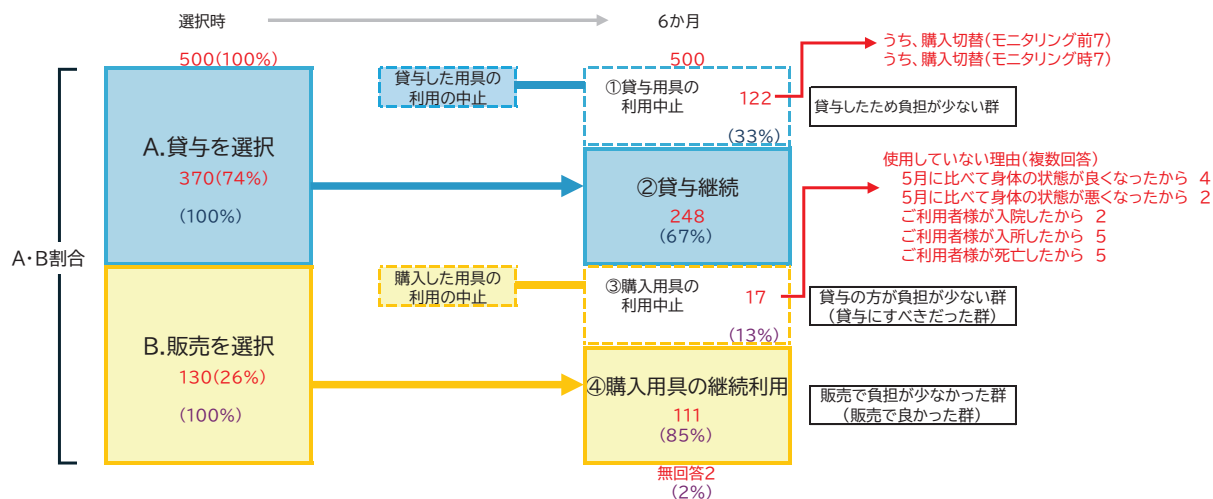
内容
導入する際は商品の良さが分からず、一旦レンタルでサービスが開始となりました。その後、利用者の ADL が高く、急な状態悪化が考えにくいことから、レンタルする場合と、購入の場合との利用者負担を考えた結果、利用者より購入とのご希望をいただきました。(固定用スロープ 6 月入れ替え)
レンタル品納品時から選択制についてご説明、自身に合うか分からないのでレンタルを希望されました。その後、お使い頂いた後、1 ヶ月程レンタルで利用したが使えそうなので購入に切り替えたというお話になり切り替えた次第です。(多点杖 6 月入れ替え)
しばらくレンタルで使ってみてこのまま使っていくことになりそうなので長い目で見ると購入した方が金銭的に安く済むとのことで購入に至りました。(固定用スロープ 7 月入れ替え)

(3) ヒアリング 3(貸与継続の検討の結果販売切り替えを選択)

内容
今後も長期にわたり利用が見込まれる為、購入に変更となりました。関係していたサービス(医師やデイサービス)に確認したところ近い将来では多点杖の使用の卒業や機種の変更になる身体状況が見込まれないことから相談をして購入となりました。(多点杖)
ご家族が今後も機種の変更なく、多点杖の利用の継続が必要と思われた為、コストを検討された結果、購入へ切り替えとなりました。(多点杖)
5 月に初回導入した際は、ご退院後間もないということと、今後おそらく四点杖がなくても歩行ができ、すぐに不必要になるだろうという本人の考えからレンタルとして開始されました。その後 10 月に確認したところ、順調に身体の回復はされてきましたが、やはり四点杖がないと転倒の恐れがあるということで、継続して四点杖は必要であると判断されました。主に使用場所は自宅内のみであることから(屋外歩行は自前のシルバーカー)メンテナンス等の不安要素も少なく、また今後も長期間使用するということから、継続的コスト面を考慮し、販売への切り替えとなりました。(多点杖)
屋内移動が変わらず歩行器での移動をされておられます。状態としては安定しており、スロープも歩行器と合わせて引き続き必要な為、改めて選択制のご説明をさせていただきまして購入の運びとなりました。(固定用スロープ)
利用者および家族が、長期的に使用していくことを鑑み、主に費用負担の観点から購入に切り替えを希望されました。(多点杖)

2.4 集計・ヒアリング結果の概要

第1回・第2回調査ともに有効回答のあった500名を対象とした概要



2.4.1 選択判断した時点について ～2024年5月(相談員票)～

○貸与・販売(購入)の選択の結果

- ・ 調査対象 548 名のうち、選択制で選択された福祉用具は、貸与が 417 名(76.1%)、販売(購入)が 131 名(23.9%)であり、貸与の割合が高かった。(表 1-12、p.11)
- ・ 販売(購入)を選択された福祉用具の割合(数量ベース)は、固定用スロープが 30.9%(114/369)と最も高く、次いで多点杖の 21.9%(75/343)、歩行器 7.6%(6/79)であった。(単点杖は 41.7%(5/12)であったが、n=12 のため参考値)(表 1-07、p.8)
- ・ 利用者が負担する費用と、「貸与・販売(購入)の選択」、「福祉用具種目(種類)」についての関係性は確認できなかった。(表 1-08～1-11、p.8～10)
- ・ 要介護状態と「貸与・販売(購入)の選択」では、要支援者が販売(購入)を選択した割合は 31.9%(53/166 名)で、要介護者の 21.7%(69/318 名)より高かった。(表 1-14、p.13)

○福祉用具専門相談員が利用者へ提供した情報

(多く提供した情報)

- ・ 福祉用具専門相談員が利用者へ提供した情報をみると、「貸与と販売(購入)それぞれの利用者負担額の情報」が 80.5%(441/548 名)で最も高く、次いで「生活環境等の変化に関する情報[本人・家族]」57.5%(315/548 名)、「状態像の変化に関する情報[介護支援専門員]」57.1%(313/548 名)、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」55.8%(306/548 名)であった。(表 1-17、p.18)
- (状態像の変化に関する情報)
- ・ 福祉用具専門相談員が状態像の変化に関する情報を入手した先をみると、リハビリテーション専門職からは 19.7%(108/548 名)、医師からは 7.3%(40/548 名)であった。(表 1-17、p.18)
- ・ 情報の入手先を福祉用具別でみると、貸与の歩行器ではリハビリテーション専門職が 36.5%(23/63 名)と、他の用具(固定用スロープ 18.1%(19/105 名)、多点杖 17.6%(43/244 名))と比較して多

く、歩行器の利用にあたってはリハビリテーション専門職との情報連携が多いことが伺えた。(表 1-23 ~1-25、p.25~27)

- ・ 介護支援専門員からの「状態像の変化に関する情報」について、福祉用具サービスのみと他サービス利用がある場合でみると、福祉用具サービスのみの場合は 45.2%(76/168 名)、他のサービスを利用している場合は 62.4%(237/380 名)であった。(表 1-29、p.31)

○福祉用具専門相談員が貸与・販売(購入)を提案した理由

(貸与を提案した理由)

- ・ 福祉用具専門相談員が貸与を提案した 424 名のうち、福祉用具専門相談員の理由としては、「長期利用だと予測できないから」が 224 名(52.8%)で最も高く、次いで「長期利用にならない見込みがあるから」184 名(43.4%)、「一定頻度のモニタリングを必要とするから」139 名(32.8%)であった。(表 1-35、p.37)

(販売(購入)を提案した理由)

- ・ 福祉用具専門相談員が販売(購入)を提案した 124 名のうち、福祉用具専門相談員の理由としては、「現在の身体状況が長く続き長期利用が見込まれるから」が 83 名(66.9%)で最も高く、次いで「販売金額が安く、利用者の負担が大きくないから」77 名(62.1%)であった。(表 1-36、p.39)

○利用者が貸与・販売(購入)を選択した理由

(貸与を選択した理由)

- ・ 貸与を選択された 417 名について、利用者が選択した理由の内訳をみると、「不要になったら返却できるから」が 362 名(86.8%)で最も高く、次いで「定期的にメンテナンスを受けられるから」237 名(56.8%)、「安く借りられるから」142 名(34.1%)と続いた。また、「安く借りられるから」の 142 名を用具別で見ると、固定用スロープが 46 名(43.8%)で最も高く、多点杖 78 名(32.0%)、歩行器 16 名(25.4%)であった。(表 1-37、p.41)

(販売(購入)を選択した理由)

- ・ 販売(購入)を選択された 131 名について、利用者が選択した理由の内訳をみると、「長く使いそうだから」が 90 名(68.7%)で最も高く、次いで「購入しても負担が大きくないから」89 名(67.9%)、「自身の所有物にしたかったから」48 名(36.6%)と続いた。(表 1-38、p.42)

○福祉用具専門相談員の提案と利用者の判断が異なる場合

(貸与の提案に利用者は販売(購入)を選択)

- ・ 福祉用具専門相談員が利用者に貸与を提案した 424 名のうち 11 名(2.6%)が利用者の意向により販売(購入)を選択した。(表 1-34、p.36)
- ・ この 11 名を個別調査した結果、販売(購入)を選択した理由として、「自身の所有物にしたかったから」が 7 名(63.6%)と多かった。また、「定期的訪問が煩わしい」、「紛失時の弁償の可能性」、「人が使用したものが嫌」など購入の選択理由は多様であった。(ヒアリング 1、p.64)

(販売の提案に利用者は貸与を選択)

- ・ 福祉用具専門相談員が利用者に販売(購入)を提案した 124 名のうち 4 名(3.2%)が利用者の意向により貸与を選択しており(表 1-34、p.36)、4 名とも販売(購入)を選択した理由は「定期的にメンテナンスを受けられるから」であった。

2.4.2 利用開始から6か月後について ～2024 年 11 月(相談員票)～

○貸与された福祉用具のモニタリング結果

(6 か月以内に貸与を終了)

- ・ 貸与された 370 名のうち貸与開始後6か月以内に貸与終了(回収)となったのは 122 名(33.0%)であった。(表 2-03、p.46)
- ・ 貸与終了(回収)の理由は、「入院(医療機関)」と「身体状況の改善」が 29 名(23.8%)で最も多く、次いで「死亡」27 名(22.1%)、「身体状況の悪化」12 名(9.8%)で、「購入品への切り替え」も 7 名(5.7%)あった。(表 2-07、p.50)
- ・ 「販売への切り替え」となった利用者の担当である福祉用具専門相談員に経緯等をヒアリングしたところ、貸与開始後の早い時期に長く使うことが見込めるようになったという内容が多かった。(ヒアリング 2、p.65)

(概ね 6 か月後のモニタリング結果)

- ・ 貸与された 370 名のうち、上記のモニタリング以前に貸与を終了した 122 名を除く 248 名に対して、貸与開始後概ね 6 か月後にモニタリングを実施した。
- ・ 「貸与の継続」は 241 名(97.2%)、「販売への切り替え」は 7 名(2.8%)であった。(表 2-04、p.47)
- ・ 販売(購入)へ切り替えた福祉用具は、多点杖が 4 名で最も多かった。(表 2-04、p.47)
- ・ 「販売(購入)への切り替え」となった利用者の担当である福祉用具専門相談員に、当時の経緯や利用者の意向をヒアリングしたところ、利用開始当初は長期利用が見込めなかったものの、モニタリング時点では長期利用を見込むことができるようになったという内容が多かった。(ヒアリング 3、p.65)

○販売された福祉用具のモニタリング結果

- ・ 販売(購入)された 130 名のうち、6 か月経過後に「使用していない」との回答は 17 名(13.1%)であった。(表 2-08、p.52)
- ・ 使用していない理由としては、「ご利用者様が入院したから」5 名(29.4%)、「ご利用者様が死亡したから」5 名(29.4%)と多かった。(表 2-10、p.53)
- ・ 販売価格は、固定用スロープの平均が 8,725 円で最も安く、次いで多点杖(17,134 円)、歩行器(21,425 円)で、販売(購入)を選択した割合の高い順序(表 1-07、p.8)と同じであった。(表 2-12、p.54)

2.4.3 利用開始から6か月後について ～2024 年 11 月(購入利用者票)～

- ・ 販売(購入)した利用者(67 名)からは、「購入して良かった」との回答が 62 名(92.5%)であり、その理由としては「これからも長く使うと思うから」が 37 名(59.7%)で最も多く、次いで「自分の物になったから」28 名(45.2%)、「購入にかかった費用が大きな負担ではなかったから」26 名(41.9%)と続いた。(表 3-05～3-06、p.60～61)
- ・ また、「貸与のほうが良かった」との回答は 5 名(7.5%)であり、その理由としては「不要になってからの処分に困るから」4 名(80.0%)と最も多かった。(表 3-05、3-07、p.60、p.62)

3. 調査のまとめ

3.1 貸与・販売(購入)選択制の実施状況について

本調査は、福祉用具利用者が貸与又は販売(購入)を選択判断している状況について、介護保険制度においてこれまで福祉用具を利用したことのない新たな利用者を対象として実施した。

3.1.1 貸与・販売(購入)の選択について(福祉用具サービス利用開始時)

貸与・販売(購入)選択制の実施にあたって福祉用具専門相談員は、利用者の意思決定支援に資するように多職種からの「状態像の変化に関する情報」、本人・家族からの「生活環境等の変化に関する情報」、「貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報」、「国が示している福祉用具の平均的な利用月数」といった多様かつ客観的な情報を入手しており、これらの情報を利用者等に提供・説明した結果、利用者の76%は貸与、24%が販売(購入)を選択していた(表 1-12、1-17、p.11、p.18)。

利用者が貸与を選択した主な理由は、「不要になったら返却できるから」、「定期的にメンテナンスを受けられるから」、「安く借りられるから」であり、貸与の利点を理解した上で意思決定していたと考えられる。

一方、利用者が販売(購入)を選択した理由は、「長く使いそうだから」が最も多く、続いて「購入しても負担が大きくないから」、「自身の所有物にしたかったから」であった。販売(購入)を選択した利用者は、自身の身体状況を安定していると考え長期利用を想定し、最終的な経済的負担が少なくなり自身の所有物となる購入を選択したものと考えられる。

販売(購入)された福祉用具の割合を多い順にみると、「固定用スロープ」、「多点杖」、「歩行器」であり、これは平均価格の低い順序と同様であったことから、福祉用具の購入価格が低いものが販売(購入)されやすい傾向にあった。

また、調査対象 548 名のうち、他サービス利用状況が「なし」の利用者は 168 名(30.7%)であった。このうち福祉用具サービスのみの利用者で販売(購入)を選択した利用者は 42 名(25.0%)であり、うち 30 名(71.4%)は「状態像の変化に関する情報」を福祉用具専門相談員はケアマネジャーから入手していた。このことから、特定福祉用具販売のみの利用者に対してもケアマネジャーは福祉用具専門相談員と連携しており、ケアマネジャーの持つ要介護認定等に関わる情報や関与が利用者における選択判断にとって必要であることが示唆された。

3.1.2 利用開始から6か月後について

利用開始時に貸与を選択した 370 名のうち、6 か月後のモニタリング時まで貸与を継続したものは 248 名(67.0%)、6 か月以内に貸与を終了したものは 122 名(33.0%)であった。

貸与を選択した利用者 248 名に対して、福祉用具専門相談員が貸与開始から6か月以内にモニタリングを実施した結果、241 名(97.2%)の利用者が「貸与の継続」となり、販売(購入)へ切り替えたものは 7 名(2.8%)であった。販売(購入)に切り替えた理由は、利用者が 6 か月間使用したことを踏ま

え、使い勝手が確認され長期の利用が見込めると判断したため、6 か月間が初めて福祉用具を使用する方にとっての試用期間の役割を果たしたものと思われる。

6 か月以内に貸与を終了した 122 名(33.0%)は、死亡や入院を含む身体状況の変化によるものが多く、販売(購入)ではなく貸与を選択したことで適切な福祉用具の交換等ができたことに加え、利用者の費用負担が販売(購入)に比較して少なかったといえる。

また、利用開始時に販売(購入)を選択した利用者 130 名に対して 6 か月後にモニタリングした結果、福祉用具が計画通り使用できている利用者は 111 名(85.4%)であったが、販売(購入)した福祉用具を使用していない利用者が 17 名(13.1%)見られた。

これらは状態像の変化等に対応して変更等が可能な貸与サービスが適しており、販売(購入)よりも費用負担が少ない利用者である。17 名のうち 9 名が購入を選択した理由として「現在の身体状況が長く続き、長期の利用を見込んだから」と回答しており、福祉用具の長期利用を見込むことの困難さが確認された。

3.2 選択制の今後に向けて

2024(令和 6)年 4 月、一部の福祉用具についての貸与と販売の選択制が、利用者負担を軽減し、制度の持続可能性の確保を図るとともに、福祉用具の適時・適切な利用、安全を確保する観点から導入された。福祉用具専門相談員や介護支援専門員は、利用者に対して貸与又は販売を選択できることについて十分な説明を行い、選択に当たっての必要な情報提供及び医師や専門職の意見、利用者の身体状況等を踏まえた提案を行うことが必要となった。

当協会は、貸与と販売の選択制が適切に運用されるために、制度の実施状況を把握し、課題等を整理することが重要と考え、福祉用具貸与・販売事業所による選択制の対象者に対して福祉用具利用状況の前向き調査(福祉用具利用開始から 6 か月後)を実施した。その結果、利用者の貸与・販売(購入)の選択時における情報提供の状況、利用者の選択理由、選択された福祉用具の種目、身体状況の変化の予測の困難さについて一定程度確認できた。

今後は、今回の対象者に対する調査を継続し、利用者における意向、身体状況の変化等を確認したい。また、販売(購入)を選択したが使用しなくなる利用者は経時的に増加するものと予測されるため、利用期間と国が判断の目安の一つとしている「利用者負担額における分岐月数」と比較、また、サービス提供者の事務負担の視点等からの検討を行いたい。

福祉用具貸与事業所並びに福祉用具専門相談員が、選択制の適切な運用にあたって、今後一層の多職種協働を図るとともに、利用者の意思決定に資する充実した情報提供及び提案が行えるよう、当協会としても本調査の結果等を踏まえて一層の啓発に努めていきたい。

以上

4. 参考資料

4.1 相談員票(第1回)

「福祉用具選択制の実施状況に関する調査」登録シート（第1回：令和6年5月）

1. 調査いただく相談員の情報（web登録ではemailアドレスを最初に入力します）

○貸与事業所番号： _____ ○相談員氏名： _____

2. 利用者の基本情報（対象福祉用具の利用開始時）

○利用者の社内管理番号（顧客コード等）： _____ ○年齢： _____ ○性別： _____

○要介護度： 要支援1・2・要介護1・2・3・4・5・申請中 ○都道府県： _____

○自己負担割合： 1割・2割・3割・なし・その他（ _____ ） ○利用開始日： _____ 月 _____ 日

○他サービス利用状況（複数回答可、福祉用具貸与のみの場合は「なし」を選択）

☐ 訪問介護 ☐ 訪問入浴介護 ☐ 訪問看護 ☐ 訪問リハビリ
☐ 通所介護 ☐ 通所リハビリ ☐ 短期入所生活介護、療養介護 ☐ なし

3. 対象福祉用具の利用開始に関する情報

○利用開始した福祉用具（選択制判断後）

	貸与数	販売数
単点杖（松葉杖を除く）		
歩行器（歩行車を除く）		

	貸与数	販売数
固定用スロープ		
多点杖		

※上記の複数のマスに数値が入った場合は下表の通り、貸与より販売を優先し、種類は単点杖、歩行器、固定用スロープ、多点杖の順で優先し、以降の設問に対してはその決定した福祉用具についてご回答ください。

（回答対象福祉用具の優先順位（①→⑧の順））

	貸与	販売
単点杖（松葉杖を除く）	⑤	①
歩行器（歩行車を除く）	⑥	②

	貸与	販売
固定用スロープ	⑦	③
多点杖	⑧	④

○提案にあたって収集した情報（入手先）と利用者へ提供した情報（複数回答可）

情報の種類	入手先	情報の入手	利用者への提供
状態像の変化に関する情報	医師	☐	☐
	リハビリテーション専門職	☐	☐
	介護支援専門員	☐	☐
	看護師	☐	☐
	本人・家族	☐	☐
生活環境等の変化に関する情報	本人・家族	☐	☐
貸与と販売それぞれの利用者負担額の情報	—	☐	☐
国が示している福祉用具の平均的な利用月数	—	☐	☐

○提案内容

☐ 貸与 ☐ 販売

○貸与を提案した理由（複数回答可）

☐ 長期利用になると予測できないから ☐ 長期利用にならない見込みがあるから
☐ 販売だと支給限度額を超過することが見込まれるから ☐ 一定頻度のモニタリングを必要とするから
☐ その他（ _____ ）

○販売を提案した理由（複数回答可）

☐ 現在の身体状況が長く続き長期利用が見込まれるから
☐ 販売金額が安く、利用者の負担が大きくないから
☐ 貸与だと支給限度額を超過することが見込まれるから
☐ その他（ _____ ） ※裏面に続きます

4. 利用者に対する質問

(調査対象の福祉用具が貸与の場合)

問い：貸与（レンタル）を選択した理由を教えてください。（複数回答可）

- ☐ 不要になったら返却できるから
- ☐ 安く借りられるから
- ☐ 定期的にメンテナンスを受けられるから
- ☐ 購入だと支給限度額を超過することが見込まれるから
- ☐ その他（ ）

(調査対象の福祉用具が販売の場合)

問い：購入を選択した理由を教えてください。（複数回答可）

- ☐ 長く使いそうだから
- ☐ 購入しても負担が大きくないから
- ☐ 自身の所有物にしたかったから
- ☐ 新品が良かったから
- ☐ 貸与だと支線限度額を超過することが見込まれるから
- ☐ 貸与時のメンテナンスや故障時の対応に魅力を感じないから
- ☐ その他（ ）

○本シートはweb登録のための下書き用です。上記の内容は以下リンクより入力をお願いします。

<https://forms.gle/NAXqc2DeMvGin5147>



4.2 相談員票(第2回)

「福祉用具選択制の実施状況に関する調査」登録シート（第2回：～令和6年11月）

1. 調査いただく相談員の情報（web登録ではemailアドレスを最初に入力します）

○貸与事業所番号： _____ ○相談員氏名： _____

2. 利用者の基本情報

○利用者の社内管理番号（顧客コード等）： _____

○自己負担割合： 1割・2割・3割・なし・その他（ _____ ）

3. 5月の調査対象福祉用具が貸与だった場合

（1）相談員による確認事項

○モニタリング実施又は全て回収時点の状況

☐ 継続中（一部回収を含む）

○モニタリング実施日： _____ 月 _____ 日 ※次の設問（貸与継続の検討の結果）へ

☐ 全て回収済

○貸与終了日： _____ 月 _____ 日

○回収した理由（複数回答可）

☐ A_入院（医療機関）	☐ G_介助者介護への切り替え	☐ M_他社への入れ替え
☐ B_入居（サ高住・有老）	☐ H_住改・リフォームへの切り替え	☐ N_経済的理由
☐ C_入所（老健・特養等）	☐ I_自立判定による保険適用外	☐ O_その他（自由記述）
☐ D_身体状況の悪化	☐ J_利用者が使用しなかった	（ _____ ）
☐ E_身体状況の改善	☐ K_死亡	
☐ F_転居（親族宅等）	☐ L_購入品への切り替え	※全て回収済の場合の設問は以上です

○貸与継続の検討の結果（全て回収済の場合を除く）

貸与の継続 ・ 販売への切り替え

（2）利用者に対する質問 ※全て回収済の場合は対象外

問い：本年5月に福祉用具を貸与が購入が選択できて良かったですか？

☐ はい ☐ いいえ ☐ わからない

4. 5月の調査対象福祉用具が販売だった場合

11月に利用者（又は家族）にアンケート用紙と返信用封筒をお渡しし、どの福祉用具に対するアンケートをお伝え
いただいた上で、回答への協力を依頼してください。（アンケート用紙右下の社内管理番号をご確認ください。）
但し、独居利用者の入院や死亡など配付できない場合は、アンケート用紙配付対象外となります。
また、以下の情報をwebにてご回答ください。

○アンケート配付日 _____ 月 _____ 日 ○アンケート配付できない事例の場合はチェックを入れてください
_____ 月 _____ 日 ☐ アンケート配付できない事例

○調査対象福祉用具の使用状況

使用できている ・ 使用していない

○販売した福祉用具の価格と、貸与だった場合の月額料金（いずれも税込（又は非課税）価格）

・販売価格 _____ 円 ・貸与時の月額料金 _____ 円

※いずれも10割相当の金額にてご回答ください

○本シートはweb登録のための下書き用です。上記の内容は以下リンクより入力をお願いします。
<https://forms.gle/zFjzKQwWHBgU4qkG6>



4.3 購入利用者票

福祉用具ご利用者（又はご家族）様アンケート

本年5月に介護保険で購入された福祉用具についてご回答ください。

回答は、□のある箇所にはチェック「レ」を入れてください。

問1：本年5月に購入された福祉用具は、現在も変わらず使用できていますか？

- ☐ 変わらず使用できている → 問4・5・6へ進んでください
- ☐ あまり使用していない → 問3・4・5・6へ進んでください
- ☐ 使用していない → 問2・3・4・5・6へ進んでください

問2：いつ頃から使用していないですか？

_____ 月頃（数字で回答）

問3：問1でそのように回答した理由について教えてください。（複数回答可）

- ☐ 用具が使いづらから
- ☐ 用具の調子が悪いから
- ☐ 用具が壊れたから
- ☐ 5月に比べて身体の状態が良くなったから
- ☐ 5月に比べて身体の状態が悪くなったから
- ☐ 入院したから
- ☐ 入所したから
- ☐ その他（ _____ ）

問4：本年5月に福祉用具を貸与か購入か選択できて良かったですか？

- ☐ はい ☐ いいえ ☐ わからない

問5：レンタルではなく、購入して良かったと感じていますか？

- ☐ 購入して良かった（複数回答可）
（理由）☐ これからも長く使うと思うから
☐ 自分の物になったから
☐ 購入にかかった費用が大きな負担ではなかったから
☐ その他（ _____ ）
- ☐ レンタルのほうが良かった（複数回答可）
（理由）☐ レンタルの方が安いと思ったから
☐ レンタルだと定期的なメンテナンスがあって安心だと思ったから
☐ 不要になってからの処分に困るから
☐ その他（ _____ ）

問6：福祉用具を利用して、転倒などの危険を感じたことがありましたか？

- ☐ あった ☐ なかった

ご協力有難うございました。本用紙を返信用封筒に入れてポストへ投函してください。

また、本アンケートに関するご意見などありましたら裏面（白紙）にご記入ください。

4.4 相談員票(第2回販売分追加)

福祉用具専門相談員向け追加アンケート

昨年5月に特定福祉用具として販売され、本調査に登録いただいたご利用者様の最近についてご回答ください。(昨年11月にご回答いただいた内容と重複する場合も、再度のご回答をお願いいたします。また、相談員様において以下設問にご回答可能な場合には、改めてご利用者様へ聞き取りいただく必要はございません。)**【回答〆切：2月10日(月)】**
設問に対するご回答は、以下URL(google フォーム)よりお願いいたします。

<https://forms.gle/6Yaad4Tui6YSnouU6>



ご回答いただく際には、貸与事業所番号及び社内管理番号(顧客コード等)の入力が必要となりますが、過去の登録情報と紐づけるため以下情報と相違なく登録ください。

★貸与事業所番号：

貸与事業所名：

★顧客コード等：

調査対象用具：

相談員様氏名：

問1：昨年5月に販売した福祉用具は、現在も変わらず使用できていますか？

☐ 使用できている → 問4へ進んでください

☐ 使用していない → 問2へ進んでください

問2：いつ頃から使用していませんか？

_____ 月頃 (数字で回答)

問3：使用していない理由は何ですか？(複数回答可)

☐ 用具が使いづらいから

☐ 用具の調子が悪いから

☐ 用具が壊れたから

☐ 5月に比べて身体の状態が良くなったから

☐ 5月に比べて身体の状態が悪くなったから

☐ ご利用者が入院したから

☐ ご利用者が入所したから

☐ ご利用者が死亡したから

☐ その他 ()

問4：販売した福祉用具の価格(10割分)をお教えてください。

() 円

問5：販売した福祉用具が仮に貸与だった場合の月額レンタル料金(10割分)をお教えてください。

() 円

ご協力有難うございました。2月10日(月)までにご回答をお願いします。

福祉用具選択制の実施状況に関する調査 報告書

令和 7 年 3 月

発行者 一般社団法人日本福祉用具供給協会

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-15 三電舎ビル4階

TEL 03-6721-5222

FAX 03-3434-3414
